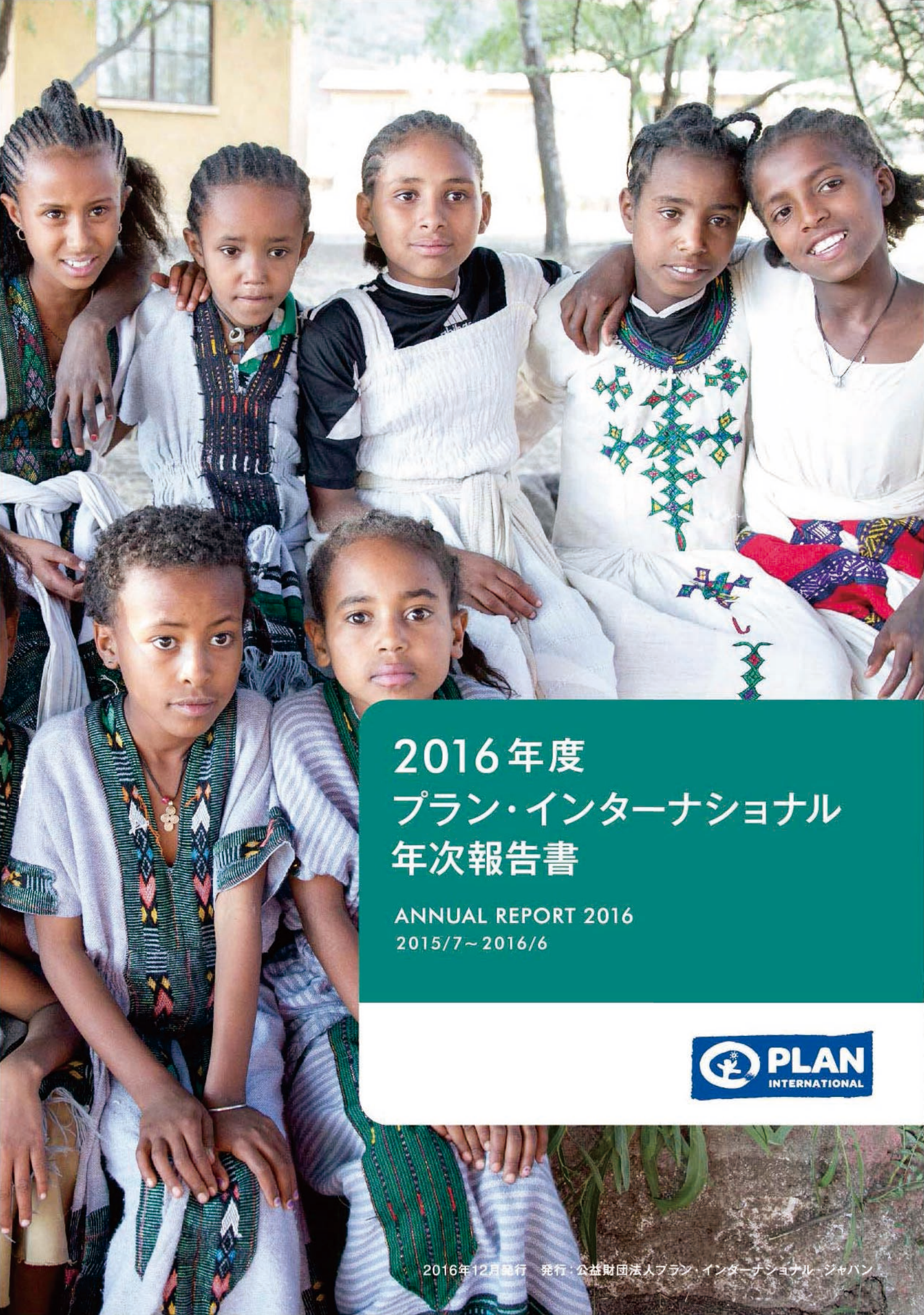


2016年度
プラン・インターナショナル
年次報告書

ANNUAL REPORT 2016
2015/7～2016/6

PLAN INTERNATIONAL

2016年12月発行　発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

2016年度の成果

5万1,680
の村で活動

6,912万118人
の地域住民と協働

3,260万4,620人
の子どもたちを支援

283万448人
に知識や技術を伝達

1万9,618
の政府や自治体、支援団体、住民組織と連携

日本のプラン

2015.10.11 第4回国際ガールズ・デー　インドの女の子が来日 ～森 星さん、池上 彰さんも登壇～

厳しい生活環境のなかで奨学金を得て大学にまで進んだインドの女の子のプリヤンカさん。

同じ状況におかれている女の子たちを代表して来日。本人の力強いメッセージ発表のほか、ドキュメンタリー映画「わたしはマララ」の国内初の特別試写会開催と、ジャーナリストの池上彰さんの登壇もあり、女子教育の重要性を日本社会へ強く訴える日となりました。

Because I am a Girl エンジェルの森 星さんとプリヤンカさん
撮影：ウシオダキョウコ

トークセッションに登壇されたジャーナリストの池上彰さん
撮影：ウシオダキョウコ

2016.4.14~ 熊本地震緊急支援　地震直後に職員が現地入り

地震直後の4月18日から職員3名が現地に入り、被災地の状況とニーズの調査を行いました。避難所訪問や学校の先生への聞き取りを通じて、子どもたちが受けたショック、連続して発生し続ける余震への不安に、「子どもの心のケア」支援を急ぐ必要があるとの確信を得ました。

そこで、東日本大震災でプランが行った被災者の心を支える活動が役立つと考え、地元の心理専門家と連携して「子どもの心のケア」ワークショップを開催。また、アフリカンドラムを使用してストレスを発散する「みんなで笑顔プロジェクト」を実施しました。詳しくは、P24の活動報告をご参照ください。

地震直後に調査をする馬野職員

女の子たちに聞き取り調査をする船越職員

世界のプラン

2016.9.8~ シリア難民支援をヨーロッパ各国のリーダーに訴える声明を発表

2015年の秋は、シリア内戦を逃れる大勢の難民への支援が国際社会で大きな課題として浮上しました。エジプトでは、従来からの難民の受け入れを拡大し、プランも食糧や防寒具などの緊急支援に加え職業訓練や心のケアなど、支援をすすめました。ドイツのプランは、ヨーロッパ各国のリーダーたちへ、難民支援に協働を呼びかける声明を発表。ハンブルグの難民キャンプで起こりうる子どもたちが遭遇する危険について、年齢や子どもたちの育った文化的背景を考慮して調査し、子どもに優しい環境の整備強化と子どもの保護支援を実施しました。

国境を歩いて越えるシリア難民　撮影：Plan International / Jodi Hilton

2015.9.25-27 持続可能な開発目標（SDGs）とともに Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンからムーブメントへ

先進国も含めたすべての国が取り組む目標として合意されたSDGsに、プランは子どもや若者の権利、教育、ジェンダー平等分野への提言を行ってきました。「誰も置き去りにしない」をキーワードに、変革の担い手としての若者、特に思春期の女の子たちが目標達成に欠かせない存在として明確に位置づけられたのは大きな成果です。BIAAGキャンペーンも、SDGsの達成期限である2030年に向けて、彼女たちが、学び、先頭に立ち、意思決定をして、目標を達成するために、アドボカシーやスケールアップしたプログラムへと歩みをすすめました。

早すぎる結婚を糾弾するパレードをするマリの女の子

ミッシェル・オバマ米大統領夫人と、女優のシャーリーズ・セロンさんらと国連総会中のサイドイベントに参加するプランの代表の女の子

CONTENTS

02 活動のハイライト
04 ごあいさつ
06 数字で見るプラン
08 活動分野の成果
14 プロジェクト報告 プラン・スポンサーシップ
18 プロジェクト報告 Girl's Project
20 プロジェクト報告 プラン一般プロジェクト
22 プロジェクト報告 プラン・マンスリー・サポーター
24 プロジェクト報告 緊急支援
26 活動を支える人々、団体、企業
30 活動国基本統計
31 日本のプランの決算報告
34 国際連結決算短信報告
35 プログラム費国別内訳

ごあいさつ

公益財団法人
プラン・インターナショナル・
ジャパン理事長

池上清子

Profile
いけがみ　きよこ
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）定住促進担当、国連本部人事局行政官、公益財団法人ジョイセフ　調査計画部長・同企画開発部長、国際家族計画連盟（IPPF）ロンドン資金調達担当官、国連人口基金（UNFPA）東京事務所長などを経て、2011年日本大学大学院教授に着任、現在に至る。2016年9月30日公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長に就任。

日ごろからの温かなご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。皆さまのおかげで、2016年度（2015年7月～2016年6月）もプランは世界の子どもたちに確かな変化をもたらすことができました。ここに、その報告書をお送りします。

本年度、プランが決意を新たにしたことがあります。それは、「誰も取り残さない」、そして「世界に前向きな変革をもたらす」団体として、より果敢にチャレンジしていくということです。これは、2015年9月に国連で採択された世界の約束事である「持続可能な開発目標（SDGs）」にも沿ったものです。

世界は今、気候変動による自然災害の頻発、紛争の激化、難民問題などさまざまな問題を抱えています。従来の貧困問題に加えて、暴力や差別といった不公正が人々を脅かしています。経済格差は拡大し、貧しい人はより貧しく、弱い立場の人はより弱い立場へ、と取り残されています。彼ら一人ひとりの人生を前向きに変えていくために、プランは今まで以上にきめ細かな活動を、そして貧困や差別の根本原因に働きかけることを自らに課しています。

取り残された人々の最大のグループは女の子と女性ですが、プランはBecause I am a Girlの活動を通じて、彼女たちを支援しています。しかし、その時自らのもつ力に気づいた女の子たちが、よりよい未来を手に入れるために積み重ねている努力を後押しするだけでは十分ではありません。彼女たちの努力を台無しにするような不公正をなくしていくのも、私たちの使命です。そこで、プランは政府や自治体に向けて、女の子の権利を守る政策や法律制定の働きかけを進めています。

私は、2016年9月30日に公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの理事長に就任しました。これまで国連機関とNGOで女性の健康問題に取り組んできましたが、その経験から、「動きが早く、専門性が高い」というNGOならではの利点を知っています。強い決意、機動性、そしてBecause I am a Girl。これらを合わせもつプランであれば、世界に変革をもたらすことができると確信します。皆さまからの引き続きのご支援を賜りたく、何卒、よろしくお願い申し上げます。

プラン・インターナショナル
理事長

ジョシュア・リスウッド

プラン・インターナショナル
最高経営責任者

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン

日本の皆さま、いつもプラン・インターナショナルの活動をご支援いただき、ありがとうございます。

2016年度も、プランは世界で3,260万人以上の子どもたちを支援することができました。

特に、2012年からすべての活動国と支援国が一体となって推進してきた「Because I am a Girl キャンペーン」をさらに力強く展開し、世界の女の子たちが差別や暴力について声を上げ、自らの権利を主張できるよう力づけてまいりました。

国際機関や民間団体などとの連携のもと、世界の女の子たちが直面している状況を正確に把握するため、独自の統計データの収集と追跡調査に取り組み始めました。信頼できる統計データがあれば、根本的原因を割り出し、活動の成果を測定し、効果的な支援を見極めることができます。各国政府が2030年までに「持続可能な開発目標（SDGs）」を達成するという約束を果たすよう促すためにも、こうした統計データの整備は重要です。

また、プランは活動している各国の法律や世論を変える支援も行いました。グアテマラでは結婚が可能な年齢を18歳に引き上げ、ギニアビサウでは、コミュニティの人々の協力のもと、女性性器切除の慣習を放棄することに至りました。

そして、私たちの仕事のすべてを支え、私たちの向かうべき未来を指し示す、新たな目標（パーパス）も2016年度に以下のように定めたところです。

「私たちは、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現する」

プランはすべての子どもたちが自分たちの権利を享受できるように、そして疎外され、差別され、最も取り残された存在である女の子たちが、権利を確立できるまで活動し続けてまいります。

世界中の子どもたちが持てる可能性を発揮できるよう、引き続きプランの活動へのご理解とご支援をお願いいたします。

評議員名簿 ※全員非常勤

2016年11月1日現在

評議員会議長	松井 陽	聖路加国際大学看護学部特任教授
評議員	飯田百合子	トライブルー・ホールディングス Pte.Ltd. 最高執行責任者
	一井呉夫	株式会社 AMS 顧問
	甲斐田万智子	文京学院大学教授、認定 NPO 法人国際子ども権利センター（C-Rights）代表理事
	河口真理子	株式会社大和総研調査本部主席研究員
	倉林栄一	日本 AMC 株式会社代表取締役
	佐藤大吾	一般財団法人ジャパンギビング代表理事
	平 久直	税理士
	轟木洋子	公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター事務局長
	畠澤 保	弁護士
	増田明美	スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授
	宮代昌三	八丈ビューホテル株式会社代表取締役
	安田祥子	声楽家

評議員 13 名

役員・顧問名簿 ※特に記載がないものは非常勤

2016年11月1日現在

理事長（代表理事）	池上清子	日本大学大学院教授
副理事長（業務執行理事）	粗 信仁	政策研究大学院大学政策研究院次長
専務理事（代表理事）	棚田雄一（常勤）	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン専務理事
理事	大崎麻子	関西学院大学総合政策学部客員教授
	金山智子	情報科学芸術大学院大学教授兼産業文化研究センター長
	鶴見和雄	公益財団法人公益法人協会評議員
	富本幾文	山口大学経済学部教授（特命）兼副学長補佐
	長坂寿久	逗子フェアトレードタウンの会代表理事
	橋本大二郎	武蔵野大学教授
	半田 滋	アジア アフリカ インベストメント アンド コンサルティング Pte. Ltd. ダイレクター
	広瀬崇子	専修大学法学部教授
	森 和之	都市総合サービス株式会社代表取締役社長
	湯川昌郎	元三菱商事株式会社役員待遇
監事	中田ちず子	公認会計士、税理士
	花木 猛	公認会計士、税理士
顧問	川上隆朗	元国際協力事業団（JICA）総裁

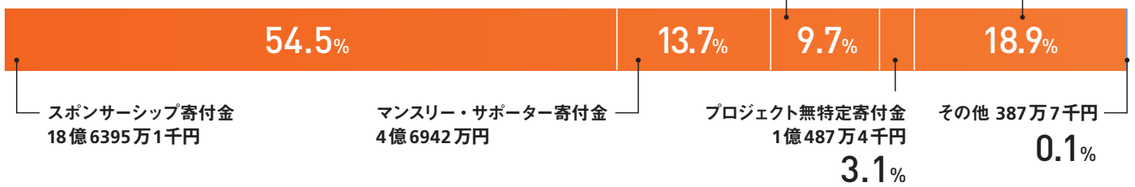
理事 13 名、 監事 2 名、顧問 1 名

2016年度 プラン・インターナショナル決算の概要

日本のプランの決算概要

2015 年 7 月 1 日から 2016 年 6 月 30 日まで　※詳細は P31 をご覧ください

経常収益内訳　合計34億2096万円

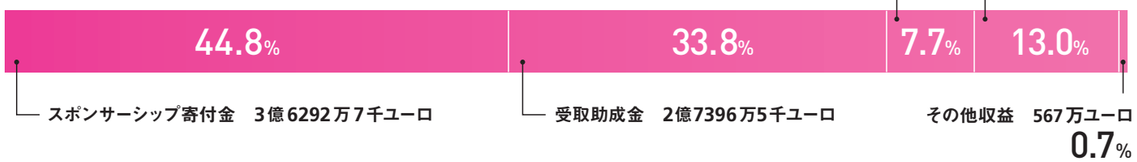


経常費用内訳（使途目的別分類）　合計34億3467万9千円

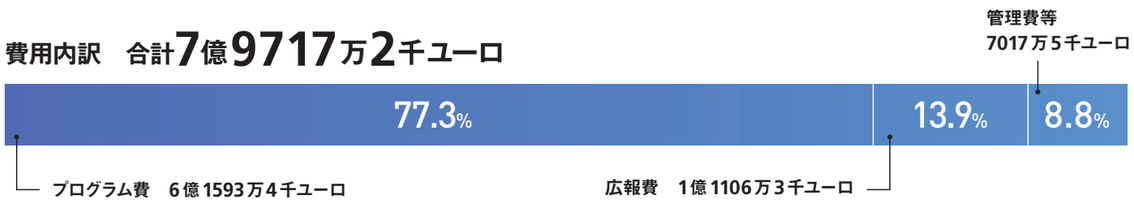
世界のプランの決算概要

2015 年 7 月 1 日から 2016 年 6 月 30 日まで　※詳細は P34 をご覧ください　※ 1 ユーロは約 114 円です（2016 年 6 月 30 日現在）

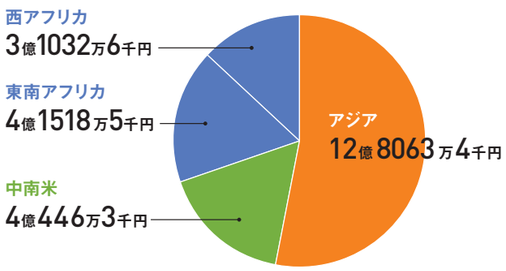
収益内訳　合計8億1004万9千ユーロ



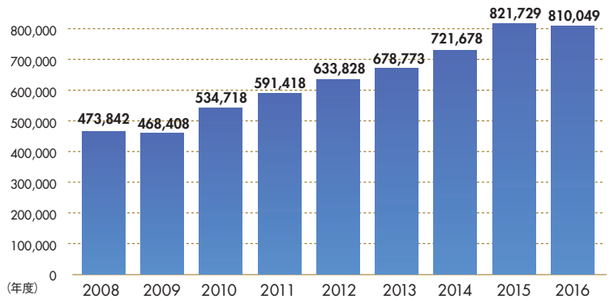
費用内訳　合計7億9717万2千ユーロ



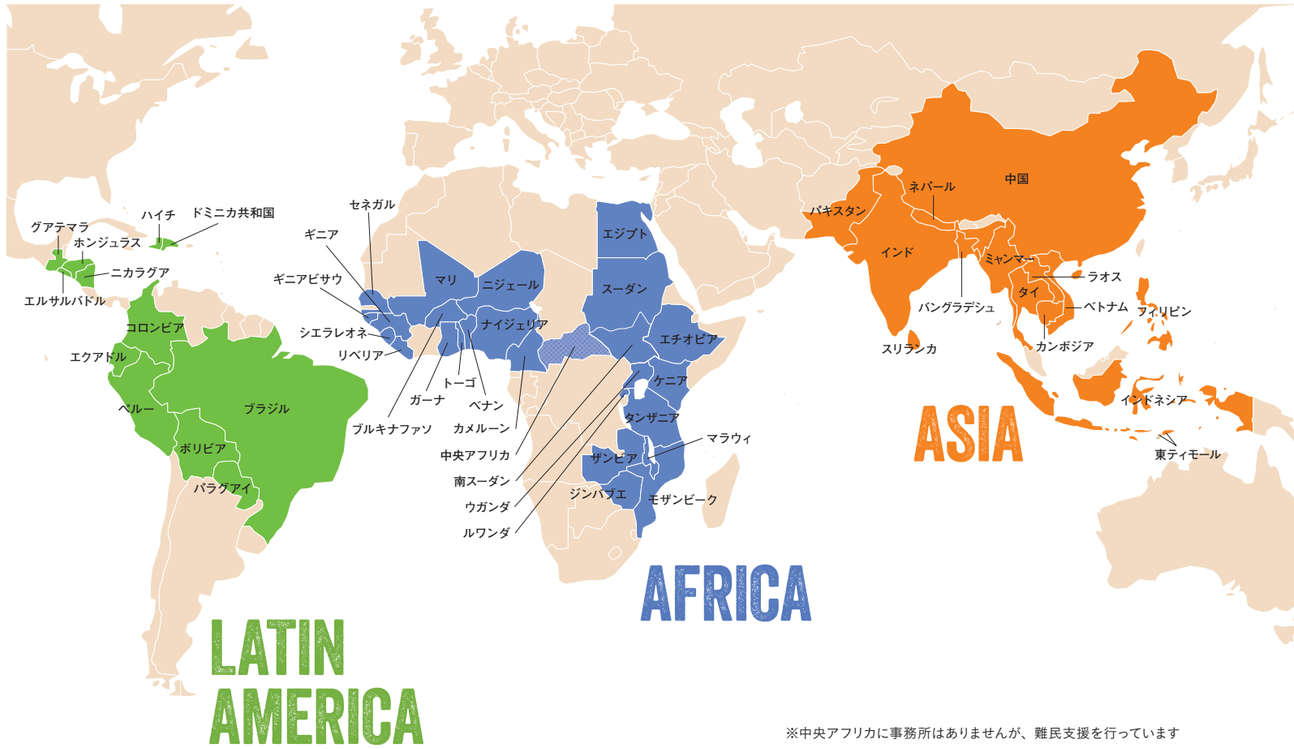
日本のプランの地域別支援額



世界のプランの収入額の推移（単位：1,000€）



プラン・インターナショナルの活動地域とデータ



※中央アフリカに事務所はありませんが、難民支援を行っています

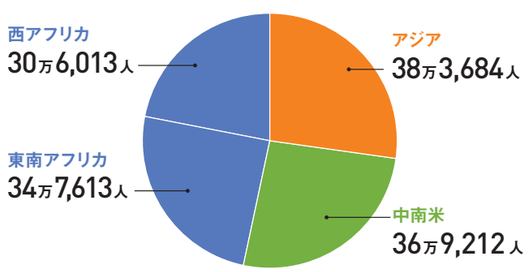
日本のプランのデータ（2016 年 6 月 30 日現在）

職員数	60 人
ボランティア数	649 人（在宅 602 人、来局 47 人）
ユース・アドバイザリー・パネル	12 人
プラン・フレンズ（開発教育ボランティアグループ）	13 人
G-SChooL（学生ボランティアグループ）	13 人
プラン・スポンサーシップ支援者数	3 万 6,198 人
プラン・マンスリー・サポーター支援者数	1 万 4,482 人
Girl's Project 継続支援者数	7,773 人
プラン一般プロジェクトに寄せられた支援件数（Girl's Project 含む）	8,723 件
緊急支援に寄せられた支援件数	2,292 件
特別プロジェクト実施件数	35 件
補助金による実施プロジェクト件数	19 件

世界のプランのデータ（2016 年 6 月 30 日現在）

支援国数	21 カ国
活動国数（事務所のある国）	51 カ国
プラン・スポンサーシップ支援者数	109 万 2,511 人
プラン・スポンサーシップチャイルド数	140 万 6,522 人
年間に行ったプロジェクト数	2,606 プロジェクト

チャイルドの住む地域



EDUCATION
教育

＼参加者の声／

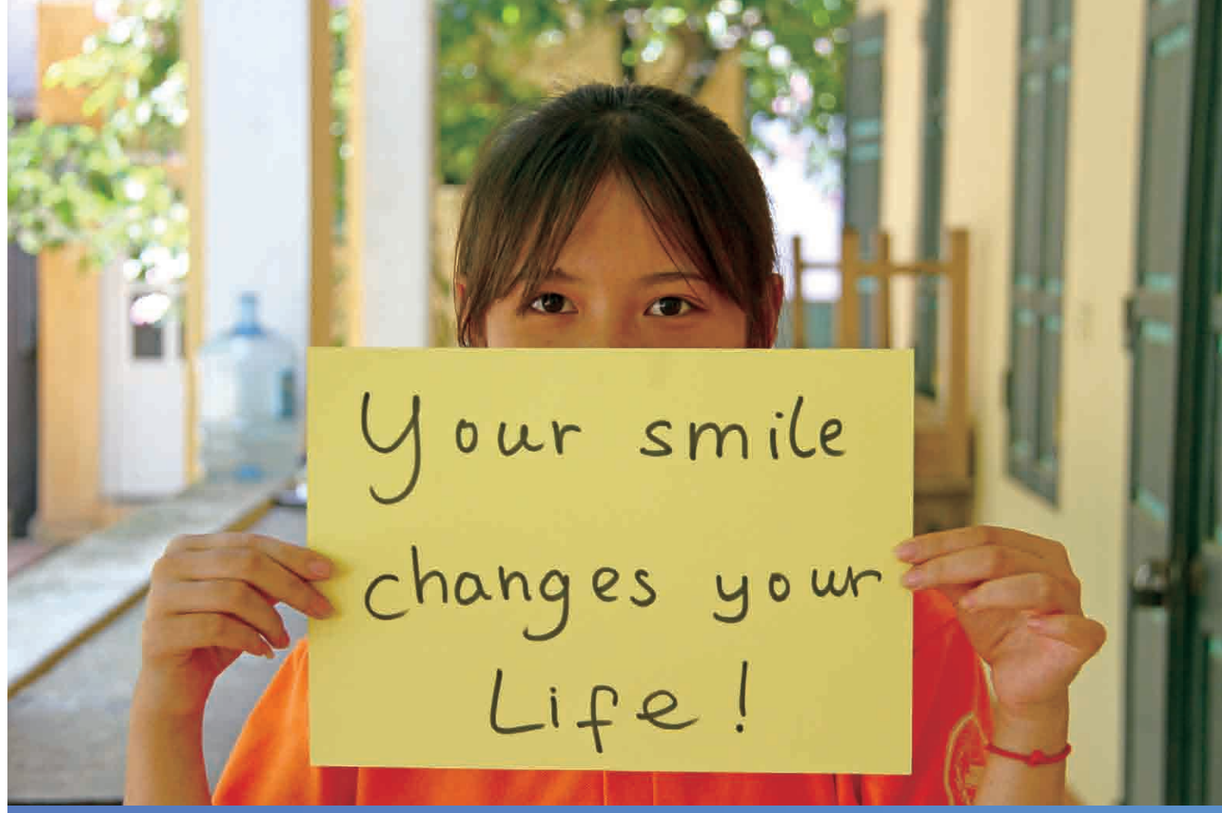
フーディさん 22歳
（プランのユース・アドバイザリー・パネル※メンバー）

エボラ危機後、女の子への性暴力が激増しました。この地域で女の子の身に起こっていることは、見聞きするのも苦しいことばかりです。私は地域のほかの男の子とともに、ジェンダーにもとづく暴力に立ち向かい、女の子や女性に対する古い世代の男性たちの考えや行動を変える活動をしています。男の子の方が女の子より取り組みやすいと思うからです。経済的理由で十分に勉強はできなかったけど、学校は卒業しました。子どもや若い人たちの権利について、啓発活動を続けたいと思います。

※プランの意思決定プロセスに参加する若者グループ

2,485校 を建設、修繕

4万4,911人
の教師をトレーニング



PARTICIPATION AS A CITIZEN
子どもの参加

＼参加者の声／

ファディマタさん 20歳
（子ども議会の議長　マリ）

11歳から子ども議会の活動に参加しています。そのおかげで、人前で臆することなく話ができるようになり、内気な性格を克服できました。議会では、マリ北部の紛争地域に住む子どもたちの権利や、青少年の性と生殖に関する権利の学びあいなど、さまざまな活動を行いました。健康に育ち教育を受けた子どもたちが、強く発展した国づくりに貢献できるのです。子ども議会はアフリカ子どもの日に、子どもの権利と保護を国の最優先事項にしてくれるよう国に訴えました。

16万1,421人
がジェンダー平等についての
トレーニングに参加

21人 のユースが
国際会議に参加

（国連総会 9人、女性の地位向上委員会 8人、Women Deliver4人）

EMERGENCIES
緊急支援

＼参加者の声／

モハメッドさん
（妻子と兄弟とともにシリア内戦から逃れた男性　エジプト）

多くのシリア人家族とボートに押し込められ不安と恐怖で一杯でしたが、ほかに選択肢はなく、危険な船上で何日も過ごしました。なんとかエジプトまでたどりつきましたが、到着してからの数カ月は本当に苦しかったです。シリアでは多くの従業員を雇い縫製店を経営していましたが、すべて変ってしまいました。子どもたちは、花火や大きな音を聞くと今も怯えます。プランの心のケア支援に参加し、子どもたちが抱えるトラウマへの対処を学びました。子どもたちを普通の生活に戻してやりたいです。

2万4,080人
のエジプトに逃れたシリア難民を支援

19万8,444人
の南スーダンの国内避難民、
隣国への難民を支援

HEALTHY START IN LIFE
保健

＼参加者の声／

シンさん
（プランの緊急時における母親と新生児および子どもの健康の専門家　ネパール）

ネパール大地震の被災地域に住む女性の、分娩・出産を取り巻く状況は非常に危険です。 設備が整った保健センターを利用しないと、母親は出血や感染により命を落とすこともあります。 ネパールはアジアのほかの地域と比べ、妊産婦と新生児の死亡率が高いのです。政府は、女性に医療施設での診察を奨励していますが、たどりつくだけでも大変な苦労と時間を要します。プランは、被災地域の女性たちへの直接支援を重要視し、妊婦や新生児のいる家へ出向いて専門家が診察を行っています。

6万5,511人
の保健の専門家とボランティアを
トレーニング

3,454棟
の診療所と乳幼児保育施設の建設と修繕

WATER AND SANITATION
水と衛生

＼参加者の声／

ソンボウンさん 23歳
（保健所で働く助産師　ラオス）

以前はトイレとシンクが1つしかなく不便でした。保健所は毎年1,500人以上の患者の治療をしますが、設備が不十分なうえ必要な水の確保もできませんでした。医療従事者は患者の治療前後に手を洗うことができず、病気の感染を心配していました。ましてや飲料水などありません。以前は歩いて15分の小川から水を汲んでこなければならなかったのですが、プランの給水設備支援のおかげで、保健所は患者と医療従事者たちにとって、格段に利用しやすい施設になりました。

187万1,695人
に水と衛生に関するトレーニングを実施

102万7,581戸
に家庭用トイレを設置

ECONOMIC SECURITY
家計の安定

＼参加者の声／

ファトウさん 27歳
（2児の母で縫製店に勤務　セネガル）

私は生後すぐに両親を亡くしておばに育てられ、教育は受けていません。誰もが自立しなければなりませんが、両親も教育もない若い女性には非常に厳しいことです。縫製の仕事につきましたが、スキルを向上させる手段がありませんでした。ところがプランの支援で豊富なビジネス知識を得ることができ、今では多くの顧客を得て皆が私の服を着てどう感じるかを思いながら働いています。さらに事業を広げ、自分の子どもに必要なものすべてを手に入れられるように頑張ります。

25万6,146人
に生計向上のトレーニングを実施

4万3,325
の貯蓄と貸付グループにトレーニングや支援を実施

CHILD PROTECTION
子どもの保護

＼参加者の声／

クラウドさん 20歳　**レナサ**さん 19歳
（難民キャンプに住む2児の親　ルワンダ）

当初は難民登録をして、食糧を含むすべてのサービスが保証されればそれで十分だと思っていました。そんななかプランからの説明で、出生登録の重要性と、子どもの正式な登録や出生証明書の取得の意義を学びました。自分の子どもたちが公式に登録されなければ、正式な文書の取得が困難になり、学校へも通えなくなってしまう。生後5日の息子の出生登録をするためプランの事務所に並びました。プランは出生登録にかかる費用を支援してくれます。息子を無国籍の子どもにはしません。

2万8,583人
のパートナー団体・機関の職員に子どもの保護に関するトレーニングを実施

22万592人
のコミュニティの人々とボランティアに子どもの保護に関するトレーニングを実施

SEXUAL AND REPRODUCTIVE HEALTH
性と生殖に関する健康と権利

＼参加者の声／

ローズマリーさん
（妊娠のため学校を中途退学した女の子　ウガンダ）

自分の身体についてもう少し知識があったら、学校を中途退学せずにすんだと思います。家が貧しく学校に通うのは大変でしたが、周囲の助けを借り授業を受けていました。生理用品が買えず、知らない男性が親切にもお金をくれましたが、その対価が妊娠でした。妊娠をするとは思いませんでした。ウガンダの多くの子どもたちは、自分の身体について十分な知識がありません。プランが学校で放課後に特別授業をしていると知り、参加しました。性と生殖に関する知識を深めたいです。

109万6,066人
の子ども・青少年・若者が性教育や啓発活動に参加

11万4,383人
の保護者、教師、コミュニティの代表に性と生殖に関する健康と権利のトレーニングを実施

PLAN SPONSORSHIP
プラン・スポンサーシップ

スポンサー数（日本）

3万6,198人（世界:109万2,511人）

チャイルド数（日本のスポンサーをもつ）

3万9,069人（世界：140万6,522人）

プラン・スポンサーシップ支援とは

子どもや住民が主体となり、教育・保健・水と衛生など、8つの分野における改善を重視し、多面的に地域開発に取り組む活動。子どもの権利と保護を第一に、人々の能力開発と行動変容を促し、最終的にはプランが地域から去ったあとも、地域の力だけで継続的に自立を可能にすることを目指します。

子どもたちの保護と権利の推進 ‖ パキスタン

活動と成果
❶ 2州20県の50万人の子どもたちを県の子どもの保護政策と連携し、あらゆる形態の暴力から保護
❷ 他団体との長年のアドボカシー活動により、刑事責任を負う年齢が7歳から10歳に変更される刑法の改正案が通過

子どもたちが中心になって啓発活動やワークショップを実施

子どもたちは、自分だけでなく年下の子どもたちをも虐待から守る準備ができました

パキスタンは、インフラや経済基盤が脆弱なうえに自然災害の発生も多く、弱い立場にある女性や子どもたちがさらなる困難に直面しています。国全体の貧困状況は緩和傾向にありますが、都市部と農村部の格差が広がっており、また、女の子が男の子と比べ重要視されておらず、家庭内や学校での体罰、虐待の対象となる早すぎる結婚を強いられるなど、その権利は守られていません。

危険を発見し、回避する取り組み

プランは、中部ヴェハーリ活動地域で2012年から取り組んでいる児童保護委員会の強化をすすめました。また、児童虐待事案を社会福祉局へ通報することで、虐待の早期発見と防止につながっています。北東部のイスラマバード活動地域では、訓練を受けた若者たちのグループが学校を回り、虐待からの身の守り方についての劇を上演。また、13の子どもクラブで466人（女の子251人、男の子215人）が、4日間のトレーニングに参加し、身の周りにある危険な場所を地図に書き入れ、危険を認知し回避するワークショップを実施。最後にその後の行動計画をたて、屋外に子どもたちの安全な場所を設けるための請願書を作成、署名キャンペーンを展開しました。

参加者の声

子どもクラブのメンバー
アイシャさん（13歳）

「子どもの権利や自分の身の守り方を学びました。いつどのように大人に助けを求めればいいのかもわかりました」

若者たちの経済的自立を目指す ‖ エジプト

活動と成果
❶ 10行政区で社会的・経済的知識の強化を推進
❷ 15～35歳の若い女性5万4,600人、男性1万5,400人が活動に参加

金融の知識を得る機会を提供し、若者たちの経済的自立を支援

貯蓄グループに参加するヤスミンとサフィア姉妹

エジプトでは、初等教育の就学率は上がったものの、中等教育では就学率・識字率において男女格差がまだ見られます。また失業率が高く、特に女性は就職難に直面し、女性の就業率が世界的に見ても低い状況です。プランは若者たちのキャリア開発と経済的、社会的なエンパワーメントに焦点を当て、経済活動への参加と収入の増加に取り組みました。

小規模金融グループなどへの参加を通してスキルを磨く

「農村部に住む若者の経済的エンパワーメントプロジェクト」は、貯蓄グループへの参加を通して金融サービスの利用の機会を作るとともに、雇用されるために必要なスキルを伸ばし、起業にむけた能力を形成することを目指しました。貧困度が高いエジプト中央部のアシュート活動地域では、特に女性に焦点をあて、10～25の小規模金融グループを立ち上げ、貯蓄や貸付の金融サービスを提供。このサービスを利用し、収入を生みだすプロジェクトをすすめました。2016年度は、479の金融グループが立ち上がり、男性1,618人、女性5,742人の合計7,360人が参加しました。

参加者の声

貯蓄グループに参加した姉妹（17歳と18歳）
ヤスミンさんと**サフィア**さん

「若者の貯蓄グループに参加し、自宅で雑貨店を開業。家の改築費も自分で支払いました。私たちが家族に変化をもたらしたことで、家族は私たちの意見を求めるようになり、自信につながりました」

“チャイルドの登録終了”を通してみる、プランの地域開発 の成果

プラン・スポンサーシップは、長期にわたり地域の人々とともにプロジェクトに取り組み、地域の活動を終了できる日を目指します。チャイルドの登録終了は大切な通過点。今年度プランから卒業した 3 人のチャイルドの住む地域についてご報告します。

バングラデシュ ディナジプール活動地域

活動開始：1995年

21年の活動で成果が。地域での活動終了を進めています

プランの活動と地域の変化

バングラデシュ北西部に位置する都市ディナジプールでは、当初 1,150 人の登録チャイルドでプラン・スポンサーシップ・プログラムを開始。その後 13 の郡に活動を広げ、うち 2 郡でプラン・スポンサーシップの活動を行ってきました。これまで 1 万 2,237 人の子どもたちがチャイルドとして登録され、活動に参加。現在は、地域の状況が改善されたことを確認し、地域の活動終了をすすめています。

これまでの主な成果

チャイルドの声

2010 年から 6 年間、
プラン・スポンサーシップに参加

ジョバさん（12 歳）

「支援により、私たちの村では大きな変化がありました。汚れた水が原因の病気は減り、すべての子どもが学校に通っています。私は子どもグループに参加して、多くを学びました。皆さんのことは忘れません。さようなら」

- 分娩施設での出産は **84%**（全国平均 32%）に
- 妊産婦死亡率は出生数 10 万人当たり **93 人**（全国平均 194 人）に
- 女の子の平均結婚年齢は、12 歳（1994 年）から **17.6 歳**に上昇
- 就学前教育を受ける子どもは 0%（1998 年）から **97%**（2014 年）にまで向上
- 小学校 **28 校**を建設
- 初等教育の修了率は、33%から **99%**に急増
- 小学校 **125 校**で、学校危機管理計画づくり

ケニア マチャコス活動地域の一部

活動開始：1997年

基準年齢に達して卒業。つながりは持ち続けたいと思います

プランの活動と地域の変化

ケニア南東部のマチャコス活動地域は、広大な乾燥、半乾燥地帯で自給自足農業とわずかな家畜の飼育で生計を立てているため、経済活動は降雨量に大きく左右されます。家計が不安定なため、中等教育への進学率が低く、安全な水へのアクセスも課題でした。低収入からくる進学率の低さ、子どもの権利が守られていないなど、課題は多岐にわたります。今回卒業を迎えたチャイルドが住む地域では、14 年にわたる活動が続いています。

これまでの主な成果

チャイルドの声

18 歳の基準年齢に達したため、
チャイルドの登録を終了

ムールさん（18 歳）

「プランは貯水タンク、学校の教室やトイレ、井戸を作ってくれました。私は登録終了が活動の終わりだとは考えていません。プランや地域ボランティアとのつながりを持ち続けたいです。ほかの子どもたちも機会を得ることを願っています」

- 安全な水を **4 万 8,000 人**以上に提供
- **140 以上**の小規模金融と貯蓄の住民グループを設立
- 94%（2003年）だった貧困率は、**59%**（2013年）に減少
- 最寄りの保健施設への平均距離は 7㎞（2002 年）から **3㎞**に短縮
- 1 万 5,000 人が学ぶ **200 教室**を建設、就学率は 37%（2002 年）から **85%**に上昇
- **82%** の地域が屋外排泄を廃止
- **2,342 世帯**がトイレを作り、感染症が減少

ペルー クスコ活動地域の一部

活動開始：1994年

36のコミュニティで活動終了。スポンサーへ最後のお手紙を書きました

プランの活動と地域の変化

ペルー南東部に位置するクスコ活動地域は、地形の変化に富み、複数の異なる文化を持つ民族で構成されています。プランは、クスコ県 13 郡のうち 7 郡、126 のコミュニティで活動してきました。2016 年度、住民が自分たちで地域を改善していく準備が整ったと判断した、クスコ活動地域の 36 のコミュニティで、18 年にわたる地域開発支援の活動を終了しました。一方、より困難な状況にある 10 のコミュニティで新たに活動を開始しています。

2016 年度の主な成果

チャイルドの声

3 歳から日本のスポンサーと交流を
開始。7年が経過し、最後のお手紙に

ジョンさん（10 歳）

「日本のスポンサーが元気いっぱいであるよう願っています。僕は学校に通っています。美術でとても良い成績を取りました。大人になったら、大きな乗り物の運転手になりたいです。僕の村での活動を支援していただき、ありがとうございました」

- **1,651 人**の子どもたちの健康状態を改善
- 給水設備 **10 基**、学校用や家庭用トイレ **1,063 基**を設置
- **5 つ**の基礎教育学習センターを設立
- 5 歳から 12 歳までの子ども **180 人**の読み書きや計算力が向上
- **1,300 人**の子どもたちが子どもの権利に関するトレーニングに参加
- 干ばつや洪水などで被災した **726 世帯**が、農業技術と灌がいシステムに関するトレーニングに参加

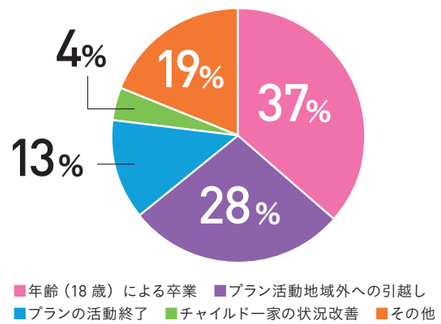
日本のプランのデータ

登録終了を迎えたチャイルド

2016年度　登録の終了を迎えたチャイルドの数
5,518 人

新たに交流を開始したチャイルド
6,266 人

登録終了の理由



チャイルド・コミュニケーション報告

プラン・スポンサーシップでの手紙による交流は、文化交流、相互理解を促進するのみならず、チャイルドにとって自分の意見や考えを家族や周りの人に伝えるコミュニケーション力を高める効果があります。プランはチャイルドからの手紙の質の改善に取り組むとともに、スポンサーが気軽にお手紙による交流ができる取り組みをすすめています。

チャイルドから届いた「一年の歩み」や手紙
5 万 9,636 通

スポンサーからチャイルドへ送られた手紙
2 万 7,860 通

コミュニティ訪問

交流しているチャイルドに会うのはもちろんのこと、地域でどのような支援が行われているのかを自分の目で確かめることで、報告書の内容がより深く伝わります。

2016 年度のコミュニティ訪問数

日本のプランは
21 件 34 人
（内訳：アジア 15 件、
アフリカ 2 件、中南米 4 件）

世界のプランで
2,138 件

Girl's Project

社会的、経済的にさまざまな制約を受け、より困難な状況に直面している女の子たちが抱える問題の解決に取り組みます。

2016 年度の支援

5 カ国 5 プロジェクトへの支援を皆さまから募り、外務省日本 NGO 連携無償資金協力を得たほか、前年度のプロジェクトへの追加事業も加え、

総額 1億5,984万267円

でプロジェクトを実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください。

女性のための生計向上 ｜ ウガンダ

活動と成果
❶ 女性による村落貯蓄貸付グループ（VSLA）の立ち上げと運用を支援（1,005人、35グループ）、ライフスキル教育（210人）
❷ VSLAの運用を指導するファシリテーターのトレーニング（10人）、市場ニーズがある職業の技術訓練（100人）

村落貸付グループを立ち上げ、女性たちの経済活動を後押し

縫製を学ぶ女の子たち

ウガンダの貧困地域では男の子が優先され、女の子の教育と就労の機会は限られるため貧困から抜け出せません。その経済支援のため、南部トロロ県と中南部カムリ県で女性たちの「村落貯蓄貸付グループ」※を立ち上げ、中途退学した 15 ～ 24 歳の女の子や若い母親が参加しました。グループ別で貯蓄とその運用を始めると、徐々にグループの基金が増えました。グループは毎週集会を開き、トレーニングを受けたファシリテーターが月 1 回は基金の運用状況を確認し、メンバーを指導。そのうち、100 人の女性が縫製や料理、整備士など、34 人の女性が養豚や養鶏、バナナ栽培などの訓練を受けました。また、女性の就職や起業を後押しするため、地元のホテル、食品工場といった主要な雇用主と行政の雇用担当者などとのミーティングを重ね、協力を求めました。

※　村人により組織された預金貸付を行う相互扶助的な小グループのこと。メンバーはできる範囲で少額を定期的に預金し、グループの基金を増やす。この基金からメンバーが必要に応じてある程度のまとまった金額を借り入れることができる。借りたメンバーが利子をつけて基金に返済することで、さらに基金が大きくなる。

参加者の声

トロロ県の女の子
ジョゼフィンさん（19 歳）

「たとえ学校に通っていなくても、女の子たちは諦めてはいけません。貧困から抜け出すためには、自分が自分の雇い主になること。料理のケータリングで起業し、希望を失った女の子たちを自分の店で雇用して、一緒に商売を拡大したいです」

女の子のための教育推進 ｜ インド

活動と成果
❶ 10 年生※修了資格試験に 89%合格（531 人、うち女の子 430 人）、生徒にキャリアカウンセリング（414 人、うち女の子 347 人）　❷ 困窮する生徒に奨学金を支給（600 人、うち女の子 492 人）、パソコンなどのトレーニング（556 人）

奨学金がつなぐ女の子の未来。全員で勝ち取った修了試験合格

教育を受ける権利、早すぎる結婚の弊害などを学ぶ生徒の親たち

南東部のアンドラ・プラデシュ州とオディシャ州はインド社会で最も虐げられた指定部族（先住民族）が多い地域で、どちらも女の子の中途退学率が高く、農村地域の女性識字率は国の平均を下回っています。プロジェクトでは、「指定部族の出身」、「経済的事情により学業を続けることができない」といった基準によって、支援対象者 600 人（うち 492 人が女の子）を選考し、奨学金を支給しました。

高等教育や就労を左右する資格試験に備えて

インドでは、中等学校の 10 年生を終え、修了資格試験に合格した場合のみ進学でき、より良い就労につながります。当初の目標は、対象となる生徒の 75%の合格でした。まず通学や教材などにかかる経済的な負担を軽減するために奨学金を支給しました。また英語、数学、理科教師のトレーニングを行い、教授法の質の向上を目指しました。トレーニングを受けた教師たちは、課外授業を自主的に実施しました。こうした支援によって、600 人のうち、目標を超える 531 人（うち女の子 81%）もの生徒たちが合格しました。

※日本の中学校卒業と同等

参加者の声

10年生の女の子
ランジタさん

読み書きのできない両親に育てられたランジタさんは、奨学金で勉強を続け、修了試験に合格しました。「一部は貯金し、技術学校への入学金に充てました。将来は家庭の経済状況を良くするために働きたいです」

子育て・家族計画サポート ｜ コロンビア

活動と成果
❶ 新生児ケア、育児や親としての心構え、家族計画や性と生殖に関する健康などの知識普及（81人）と若年層へのトレーニング（1,653人）
❷ 保健医療サービス従事者へのトレーニング（27人）、演劇を通じたトレーニング（4,615 人）

思い込みや差別を乗り越え、思いやりと愛情ある関係をつくる

プロジェクトに参加した女の子とその家族と（右端　久保田職員）

アフリカ系コロンビア人が多く暮らす地域では、妊産婦死亡率や 15 ～ 19 歳の女の子の妊娠率が国の平均を超えています。そこで、北部スクレ県シンセレホ市において、妊婦と夫への正しい育児法や家族計画を指導。 18 歳未満の女の子たちを対象に、パートナーや家族と協力して思いやりや愛情ある育児をする心構えについて指導し、性と生殖に関する知識を持ってもらうことを目指しました。

演劇など多彩なトレーニングを

10 代の妊娠率の高さの背景には、男性優位の思想（マチスモ）がうかがえることから、ジェンダー平等についてのワークショップを 10 代の男女を対象に実施。その保護者にも男女の力関係について意識改革をうながし、避妊方法のトレーニングでは保健所のスタッフが説明し、困ったときに相談できる協力体制も整えました。一方で、妊娠や避妊の問題を公に話すことへの抵抗や、育児は女性の問題とする男性側の反発も根強くあり、多くの参加者を得るために、観客も参加できるお芝居を通じたトレーニングなどの工夫を凝らしました。

現地リポート

コミュニケーション部
久保田恭代職員

10 代の男の子たちが「女の子と協力したい」「（女性の役割である）掃除をするとオカマって言われるのはおかしい」と、マチスモに異議を唱える姿を頼もしく感じました。こうした変化は、男の子にとっても生きやすい社会につながります。

プラン一般プロジェクト

現地で特にニーズの高いプロジェクトを選び、
単年で目標を設定し、支援のプロジェクトを策定します。

2016 年度の支援

4 カ国 4 プロジェクトに皆さまからの寄付を募り、外務省日本 NGO 連携無償資金協力、同じく草の根・人間の安全保障無償資金協力を得て、

総額 1億3,754 万 7,034 円

でプロジェクトを実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください。

水の確保と衛生改善 ｜ ラオス

活動と成果
❶ 4 村で給水システムの敷設（2 村で完成、2 村は 2016 年 12 月に完成予定）
❷ 水管理委員会の立ち上げとトレーニング（28人）、住民対象の意識啓発活動（165人）

清潔で安全な水を利用できる給水システムを村に設置

新しくできた給水所

北部ウドムサイ県フン郡の 4 村（住民 3,197 人）では、安全な給水設備がなく、屋外排泄や、手洗いをしないなどの不衛生な習慣から、下痢など感染症の危険にさらされていました。この状況下で、給水設備の改善と水と衛生に関する意識啓発トレーニングを行い、地域全体の衛生環境の改善を目指しました。

長期管理に配慮した工夫を

県の保健局の専門技術員と地域の保健ボランティアが、敷設場所や設計を決めた給水システムは、山岳地帯ならではの土地の高低差を利用したもので、維持管理コストが低くなります。さらに地域の人々と一緒に役割分担をしながら活動を進めたことで、その後の維持管理体制もスムーズに。年間の一人あたりの費用分担やルール違反の罰則など、利用のルールを詳細に決め、人々が自力で、長くこの給水システムを使えるように工夫しました。水管理委員会の女性メンバーには維持管理に関わる会計トレーニングを実施し、女性に新しい知識とスキルを提供しました。

参加者の声

バンタン村の女性
リーさん（20 歳）

バンタン村では満足な給水設備がなく、近くの川の水に頼るしかなかったリーさん。「夫は川の水で体を洗って皮膚病にかかりました。近くの農場からの農薬が流れ込んでいるのが原因ではないかと思っていましたが、新しい給水設備のおかげでようやく心配せずにすみます」

災害に強い小学校校舎建設 ｜ フィリピン

活動と成果
❶ 災害に対応できる新校舎の建設（2 校各 2 教室）、給水設備（給水タンク、手洗い場）とトイレの設置、教室備品の支給
❷ 衛生知識に関するオリエンテーションの実施と衛生キット（歯ブラシ、歯磨き粉、石けん、タオル）の支給（259人）

災害があっても安心して学べる学校環境を目指して

関係者を集めてプロジェクトを説明

2013 年 11 月 8 日、台風ハイエン（フィリピンではヨランダ）が上陸。フィリピンの 9 地域で、500 万人の子どもを含む 1,500 万人が被災し、家を失った人は約 400 万人、死者は 6,000 人に。教育省によると、公立の小学校・中学校の合計 3,375 校で 5,898 教室が全壊、1 万 4,508 教室が一部損壊しました。

建設から維持管理まで地域の人々が積極的に参加

プロジェクトでは、校舎が損壊した東サマール州のスーン小学校とピリウ小学校に、安全に授業を行うことができる学習環境を提供しました。教師や、児童、保護者をはじめとする地域の人々は、プロジェクトの計画立案から、実施、進捗管理、評価などすべての段階に関わりました。こうした案をもとに、災害に強い構造設計や強度のある資材を利用し、新校舎が完成しました。また、プロジェクトでは、リョレンテ市防災管理評議会の協力のもと、防災についてのオリエンテーションと訓練を実施。防災の知識を得て、災害時に的確に避難できるように備えることの大切さを学びました。

参加者の声

スーン小学校生徒
エビータさん（12 歳）

「以前の校舎は、雨が降ると雨漏りで授業どころではありませんでした。校舎が完成し、今は学校に行くことが嬉しいです。清潔で安全になった校舎を誇りに思います。学校にいる間は、とても安心して安全に過ごすことができます」

子どもの栄養改善と食糧確保 ｜ マラウィ

活動と成果
❶ 災害に強い農業技術のトレーニング（170人）、防災チームの立ち上げと防災関連のトレーニング（600人）
❷ 母親への母乳育児のトレーニングと奨励（160人）、衛生環境の改善に関する意識啓発活動（180人）

食糧危機をきっかけに栄養改善と防災に取り組む

支給された成長の早いジャガイモの苗を運ぶ女性

2015 年 1 月の大雨による洪水で、全国で約 100 万人が被災し 10 万トンの穀物が失われたマラウィでは、食糧不足が深刻で、農作物の栽培などを通じた食糧確保が急務でした。

食糧事情改善と防災への備え

目標は、大きく分けてふたつ。ひとつめは、洪水で悪化した食糧事情と住民の栄養状態の改善、災害に備えた長期的な地域農業への取り組みです。ふたつめは、洪水に対する防災の備えをすることです。ひとつめについては適切な農作物の栽培の訓練や収穫物の保存方法、さらにキャッサバやさつまいも、ピーナッツなどの穀物の栽培を導入するための指導と種子の支給などを行いました。また、子どもの栄養不良改善のために、母乳育児や栄養に関する知識を提供しました。ふたつめの防災対策については、各地域で防災チームを立ち上げ、洪水や干ばつのハザードマップを作成しました。

地域の人々は、プロジェクトを通じて、自然災害に立ち向かうための新しい備えを学ぶとともに、身近でできることから対策を講じる大切さへの理解もすすみました。

参加者の声

家庭菜園トレーニングに参加した母親
ピリラーニさん

「子どもたちにはおかゆを中心にたくさん食べさせていたのですが、お腹が膨らみ顔色が悪いのです。原因は栄養不良。このプロジェクトで栄養について学び、家庭菜園を始めてからは子どもの健康状態が改善されたと思います」

プラン・マンスリー・サポーター

「紛争と災害」「虐待」など子どもたちが直面する社会問題の解決に特化して支援します。

2016 年度の支援

11 カ国で 9 プロジェクトに皆さまからの寄付を募り、国連世界食糧計画、国連移住機関の協力を得て、

総額 5億5,770万9,712円

でプロジェクトを実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください。

子どもの保護とケアおよび地域社会への復帰支援 ‖ スリランカ

活動と成果

❶ 子どもの保護活動を支援するコミュニティ・ボランティアの能力強化（772人）と、活動の成功事例の研究発表会（83人）
❷ 州レベルでの子どもの保護に関するデータベース完成、虐待された子ども（女の子 31人、男の子 17人）に法的支援や医療支援

子どもの虐待の情報を集めたデータベース完成。実情の把握へ

ボランティアたちの能力強化トレーニング

スリランカの約 30 年にわたる内戦で特に戦闘が激しかった東部州バティカロア県では、紛争に巻き込まれた子どもたちの多くが保護者を失い、暴力、虐待からの保護が課題でした。プランと州の法務局などとの連携により、子どもの保護に関するデータベースが完成したおかげで、実態の把握が進み、行政と協力しながらの対策が可能になりました。

子どもの保護に必要なサービス

病院や警察などで子どもの虐待が発覚した場合、被害者は小児科医、精神科医、ソーシャルワーカーや法律関係者など、医療と法の支援を受けられます。3 年間の活動を通じて、子どもが直面する課題を洗い出し、解決のために必要な体制を整えることができました。村レベルの保護活動をするコミュニティ・ボランティアと、行政サービスの連携も成功の鍵のひとつです。

今後は子どもたちを対象に虐待に関する知識普及や被害にあった子どもたちへの適切な行政サービスを提供するほか、新たなボランティアの育成や学校での虐待や暴力の予防のための教師トレーニングなどを継続します。

参加者の声

子どもクラブの青年ボランティア
ビシャンサンさん

内戦で故郷を離れ、3 年前に帰郷し、プランのトレーニングを受け、ボランティアに。「内戦で傷ついた多くの子どもたちのために何かをしたかった。子どもたちは地域を良くする十分な力を持っていると思います」

学校給食を通した子どもの栄養改善 ‖ カンボジア

活動と成果

❶ 学校給食（朝食）の提供（生徒 14 万 5,544 人）、奨学金支給（4 ～ 6 年生の子どものいる 2,366 世帯）
❷ 教師、保護者、コミュニティへの学校給食継続運営のためのトレーニング

地域の自立を目指して、支給から指導へ施策を移行

給食を食べる子どもたちと山形職員

北西部のシェムリアップ州、バッタンバン州、カンポントム州の対象校では、毎朝の学校給食、貧困世帯への米・奨学金支給に加え、地域住民の協力のもと学校給食継続のための施策を続けています。また、本来の目標である「ひとりでも多くの子どもが小学校を卒業できるように」を活動の基盤に、子どもを取り巻く教師、親、地域社会を巻き込んで教育やジェンダー平等の促進にも力を入れています。

米の支給をやめ、学校と地域の協力体制をサポート

活動 3 年目を迎えた今年度、連携する国連世界食糧計画や学校と話し合い、学校給食の運営費の一部として調理係と食糧庫管理係へ提供していた米の配布を止めました。学校の自助努力で運営費を賄うことで、支援からの自立を進めるためです。プランは、学校に対して資金の集め方や学校予算の使い方について指導を行い、学校は、生徒と親、コミュニティと協力して、米の調達に努めました。一時的に学校給食の提供が止まった学校もありましたが、学校と地域が協力し組織的に対応できるよう支援をしました。

現地リポート

プログラム部
山形 文 職員

この地域の親世代は子ども時代をポルポト政権下で過ごし、教育を受けられず労働を強いられて生き延びました。そのぶん子どもの教育には熱心。親たちの苦労を知ってか、子どもたちは学校を一日も休まない、と両親と約束しているそうです。

障がいのある子どもたちの支援体制作り ‖ トーゴ

活動と成果

❶ 障がいのある子どもの首都へのレクリエーションキャンプ（125人）、リハビリテーション（454人）
❷ 子どもクラブ主導による地域住民への意識啓発活動（1,978人）、地域ボランティアの育成（100人）や手話指導（41人）

地域住民が主役の障がいに偏見のない地域づくり

眼科医の診察を受ける女の子

トーゴでは何らかの障がいのある人が人口の約 10％いると推定されますが、彼らのニーズをカバーする社会サービスのほとんどが有料で都市部に集中し、農村部の貧しい家庭には手が届かないのが現状です。プロジェクトでは、中部チャオウジョ県、ビリッタ県、東モノ県の計 48 村において、障がいのある子どもたちが安心して地域で暮らせる体制作りを目指してきました。約 5 年間の活動を通じて、3,132 人（うち女の子 1,412 人）に必要な社会サービスを提供しました。

イベントや地道な活動で啓発

「アフリカ子どもの日」に 2 カ所でイベントを実施。計 2,400 人が集まり、紛争や災害のときに、障がいのある人々や子どもが大きな被害を受けやすい現実についてプラン職員が語り、助け合うことの重要性や、これまでの紛争や災害の歴史、自分たちの身をいかに守るべきかという話をしました。このほか、子どもたちへのリハビリテーションの実施、地元 NGO との連携強化や意識啓発活動、地域ボランティアの訓練、子どもクラブの運営、医療や教育現場の専門家とのネットワーク強化などを行いました。

参加者の声

治療の後遺症で歩行困難になった女性
ホダロさん（20歳）

「歩き方がおかしいと同級生に嘲笑され、いじめられました。同世代のみんなに障がいについてもっと知ってほしいと思います。このプロジェクトのおかげで勉強を続けられ、高校も卒業することができました」

緊急支援報告

自然災害や紛争の際、救援物資の支給や避難所の設置のほか、有事に後回しにされがちな子どもの教育や女性の権利保護に注力し、予防も含めた長期的視野に立った復興支援を行います。

2016年度の支援
6カ国5プロジェクトは、
総額 1億5,693万9,691円
で実施しました。

＊会計の詳細については P32-33 をご覧ください。

南・東南アジア洪水緊急支援 ｜ パキスタン、ミャンマー

活動と成果
❶ パキスタンで蚊帳を含む衛生キットの配布（835世帯）、ミャンマーで子どもキットの配布（1,968世帯）
❷ パキスタンで壊れた井戸の再設置（4基）、ミャンマーで被害を受けた貯め池の再整備（11カ所）など

もっとも弱い立場にある人々に届く緊急支援を

シェルターキットを受け取り、笑顔を見せる住民（パキスタン）

2015年7月に降り続いた大雨の影響で、パキスタンとミャンマーで大規模な洪水が発生しました。パキスタンでは死者226人、被災者約180万人、ミャンマーでは死者132人、被災者約160万人にのぼりました。プランはこの2カ国で、被災者の中でも特に困難な状況にある人々を対象に緊急支援を行いました。

障がい者や高齢者などを対象に

パキスタンでは、衛生状況の悪化を防ぐための衛生キットや、家を失った人の生活を支えるシェルターキットを配布。障がいや慢性疾患のある人、女性世帯主、高齢者、生活保護受給者など、災害時に弱い立場の人を対象としました。

ミャンマーでは、家財が流された人たちを対象に、衛生用品や学用品、サンダル、洋服などが入った子どもキットを配布。少数派で排除されやすいイスラム教徒のコミュニティでも配布を実施し、被災した人たちがより早く通常の生活を取り戻すための支援を行いました。

また、2カ国ともに、水に起因する病気を防ぐため、井戸や貯め池などの給水施設の支援も実施しました。

被災者の声

パキスタンで被災し家を失った2児の母
イルシャドさん

「避難所の環境の悪さに、障がいのある兄の家に移りましたが長く滞在することはできませんでした。シェルターキットの支援を受け、壊れた家の隣に設置したとき、また家を建てようという希望がわきました」

熊本地震緊急支援 ｜ 日本

活動と成果
❶ ストレス発散のためのアフリカンドラム演奏会開催（24回・2,722人）、教師や保護者のための心のケアワークショップ実施（13回・1,073人）❷ 災害後の心のケア支援を考える、子ども支援フォーラム開催（2回・85人）

専門家やアーティストとともに取り組む被災地の心のケア支援

くまモンも飛び入り参加

2016年4月14日以降に熊本県で発生した地震による死者は、関連死を含めて136人にのぼっています（2016年10月25日時点）。住宅被害は18万棟を超え、多数の人が避難所や車中での生活を余儀なくされました。プランは、東日本大震災で協働した「ドラムカフェジャパン」と子どもたちのストレス発散を目的とした「みんなで笑顔プロジェクト」（参加型アフリカンドラム演奏会）を各地で開催しました。5月6日、益城町 広安西小学校での演奏には200人以上が参加。「くまモン」がサプライズ登場し、大いに盛り上がりました。

県内外の心理専門家と連携

また、プランは東日本大震災で宮城県の心理士会有志が立ち上げた「ケア宮城」の専門家を熊本県にのべ20日間招へいし、地元の心理士たちと協議を重ねながら、県内各地で心のケアを中心とする支援を行いました。2016年5月28日に熊本市内で開催されたフォーラムでは、「ケア宮城」のメンバーやプラン職員が世界保健機関（WHO）などの国際支援のガイドラインを説明しました。

参加者の声

日本学校心理会熊本支部支部長、
尚絅大学短期大学部幼児教育学科教授
緒方宏明さん

「今回の熊本地震では、プランから、東日本大震災での心のケア支援について多くの情報を得ることができ、必要な資料の提供、シンポジウムの開催、そして地元心理士会の連携をコーディネートしていただくなど大変お世話になりました」

エクアドル大地震緊急支援 ｜ エクアドル

活動と成果
❶ 食料（4,941世帯）、マットレス（2,617世帯）、蚊帳（241世帯）、乳児のおむつ（1,746世帯）、仮設テント（65世帯）などを支給 ❷ 給水設備（82世帯）・下水処理（202世帯）の支援、「子どもにやさしいスペース」開設（23カ所）など

地震前の日常を取り戻すために子どもの保護と教育を優先

ダニエラさんと地震で壊れた彼女の家

2016年4月16日、エクアドル太平洋沿岸でマグニチュード7.8の大地震が発生、660人以上が死亡。その後も余震、大雨、洪水に見舞われ、家の損壊で8万人が他所へ移り、2万2,000人が生計手段を失ったといわれています。875の学校も被害を受け、一時は12万人の子どもたちが通学できなくなりました。

細やかな調査で必要な支援を。子どもたちの心のケアも重視

北東部のマナビ州は、プランが25年以上、開発支援を続けてきた地域です。プランの職員は、マナビ・スール活動地域の150以上のコミュニティに住む1万5,000世帯を訪れ、被害の状況とニーズを調査。シェルター、食料・飲料水、衛生用品などを支給、給水設備や下水処理の整備を支援しました。また、各地に「子どもにやさしいスペース」を開設し、非常時における子どもたちの保護や心のケアにも力を入れました。そこでのレクリエーション活動では、地域の若者41人が訓練を受けボランティアとして活躍しています。さらに、子どもたちが学校教育を受け続けられるよう、仮設教室の設置や学校再開のための教材支給も行いました。

被災者の声

被災した女の子
ダニエラさん（12歳）

「地震のときは障がいのある弟と2人きりでした。外出していた母のことも心配でたまりませんでした」。家と家財を失い、恐ろしく辛い思いもしましたが、「子どもにやさしいスペース」で安心して過ごせるようになりました。

プランの活動を支える人々や団体

多くの人々と協力することで活動が広がり、小さな変化から大きな変革を起こす力を生み出すことができます。2016 年度、プランの活動を多方面から支え協働してくださった人、団体の取り組みを紹介します。

個人支援者との協働
～プラン特別プロジェクト～

10カ国

35 プロジェクトを実施

相続、遺贈を含む個人の方の 10 カ国 35 件のプロジェクトが実施されました。教育の重要性を考え支援される方が多く、就学前教育施設建設支援に 9 人、学校建設支援に 8 人の方が参加されました。また、複数人でひとつのプロジェクトを一緒に支援する「5 人で支援する特別プロジェクト」を春と秋に 2 回実施。どちらも募集人数を上回る 12 人と 8 人の方が参加され、当初の計画より大規模な支援を実施することができました。

支援で作られた遊具で遊ぶ子どもたち（ラオス）

教育機関との協働

73校

9,600 人以上と連携

対象を高校生・大学生のユース層に据え、「認知」「共感」「参加」を得ることを目的として、開発教育を実施しています。グローバルな課題学習を積極的に進めている中学校・高校や、開発やジェンダーの専門的研究を行っている大学・大学院との連携を深め、国際 NGO ならではの知見を日本の教育現場につなげました。2016 年度は 73 校の学校、PTA、団体計 9,600 人以上に途上国問題などをテーマに授業を行うとともに、オリジナル教材や資料の提供を行いました。また、中高生を対象とした読書感想文コンクールには、全国の 64 校が学校として参加しました。

東京大学大学院のセミナーで「伝統的慣習と子どもの安全保障」をテーマに講義

他団体との協働 with 東京マラソン財団

180 人以上がプランへのチャリティに参加

© 東京マラソン財団

「東京がひとつになる日。」をコンセプトに開催してきた東京マラソンでは、2011 大会から、チャリティ事業を実施。プランは 2012 大会からチャリティの寄付先のひとつです。チャリティ団体として 5 回目の参加となる 2016 大会では、プランに 180 人以上の方がご寄付くださり、1,434 万 8,380 円の寄付が集まりました。そのうち 140 人の方がチャリティランナーとして東京マラソン 2016 大会を走り、インドのカースト制度により差別を受けている貧困世帯の女の子に、中等教育を修了できるように奨学金を贈るプロジェクトを支援くださいました。

ボランティア・グループとの協働

「東京ヤマソン 2016」with インターナショナル・ボランティア・グループ

1,100 人 300チームがエントリーし約100人のボランティアが大会運営に参加

JR 山手線全 29 駅を 3 人または 4 人一組で歩いて回るファンドレイジングイベント「東京ヤマソン」。主催者は、日本に住む外国人を中心としたインターナショナル・ボランティア・グループ（IVG）です。複数の企業もスポンサーまたはサポーターとしてイベントを支え、第 8 回となる今大会は 2016 年 5 月 21 日に開催されました。参加費は 100％プランに寄付され、2013 年にフィリピンで発生した大型台風ハイエンにより被害を受けた小学校の再建プロジェクトに充てられました。

スタートを間近に参加者からは大きな歓声が！

開発関係機関と協働

13カ国

19 プロジェクトを実施

外務省をはじめ、国連機関や開発銀行などの公的機関も途上国開発を進める重要なパートナーです。今年度も外務省、アジア開発銀行、国連世界食糧計画などと協働し、教育や保健分野の地域開発のほか、自然災害被災者の復興、紛争による難民や国内避難民の支援にも取り組み、活動の幅を広げました。

国連世界食糧計画と協働した「子どもの栄養改善のための学校給食支援」（カンボジア）

災害を乗り越える力をサポートする冊子

熊本地震支援を中心に

約 11,000 部を配布

2011 年に世界保健機関（WHO）が心のケア活動の指針として発表し、プラン・インターナショナルが日本語翻訳に関わった「WHO 版心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）フィールド・ガイド」。2012 年 8 月に、日本国内で支援活動を行う人向けに編集し発行したものがこの冊子です。発行以来、2016 年 6 月までに全国各地の心理士、NPO/NGO、学童保育、行政などを中心に、4 万 4,000 部以上を配布しました。行政や地域の人々、家族や友人、学校の教員や保育士、保健師など、支援にかかわるすべての人が、業務や日常生活に少しの心理的配慮を込めるだけで、被災者の心の大きな支えとなります。被災者との関わり方、支援者として配慮すべき具体的なポイントを示しています。

*5 部以上ご利用の方には、郵送します。詳しくは事務局までご連絡ください

アドボカシー

日本政府に提言書を 3 回提出

外務省参事官へ女子教育への支援を訴えました

2015 年 9 月に国連で採択された「持続可能な開発目標」にあわせ、日本政府は、教育分野やジェンダー分野における国際協力の新たな戦略を策定しました。策定にあたり、女子教育強化に向けた提言書を外務省に提出。すべての教育段階における女の子の就学・修了率の向上と就業への連結、教育におけるジェンダー格差の是正が重点的な取り組みとして政策に取り入れられました。

今後も、日本政府が「持続可能な開発目標」の達成に向けて国際社会に貢献できるよう、NGO ならではの知見を提言していきます。

活動を支える企業のCSR

2016年度、日本のプランは977の企業・団体から支援をいただきました。
支援の形はさまざまです。商品の売り上げの一部を寄付に充てる、社員の有志で寄付金を集める、
プラン・スポンサーシップ支援を通して活動地域に住むチャイルドと交流する、
ひとつのプロジェクトを丸ごと支援するなど、それぞれのスタイルでご支援に参加いただいています。その一部をご紹介します。

＊BIAAG:　Because I am a Girl の略

小学館 Oggi 編集部&マガシーク株式会社

ファッション雑誌と通販サイトのコラボレーション企画を通した支援

ファッション誌「Oggi（オッジ）」と総合ファッション通販サイトの「MAGASEEK（マガシーク）」は、両社のコラボレーション企画を通してBIAAGキャンペーンを支援してくださっています。本年度は、Oggi 4月号及び10月号で掲載されMAGASEEKで販売される洋服やバッグ等のファッションアイテムの売上げの一部からBIAAGキャンペーンの活動を応援くださいました。BIAAGへの支援の内容については、随時Oggi編集部のウェブサイト上でも公開し、読者にも報告されています。

BIAAGへの支援となるアイテムが紹介された2015年Oggi10月号

KOE&オーガビッツ

オーガニック商品の売上げの一部による支援

「KOE」は株式会社ストライプインターナショナルが展開するグローバル戦略ブランド。そして、「オーガビッツ（Orgabits）」は、繊維専門商社の豊島株式会社が推進しているオーガニックコットンを通して“ちょっと”ずつ地球環境に貢献しようという想いから始まった社会貢献プロジェクト。2014年秋のKOEの立ち上げ当初より「KOE」と「オーガビッツ」のコラボレーションが実現し、KOEが販売するオーガビッツ商品の売上げの一部から、BIAAGキャンペーンを支援くださっています。

オーガビッツのVネックプルオーバー

フォートレス・インベストメント・グループ・ジャパン合同会社 × リーガロイヤルホテル京都

ホテル改修に伴う装飾品のチャリティ・オークションによる寄付

改修工事のため2016年2月より全館休業に入ったリーガロイヤルホテル京都は、その直前の1月20日から26日まで、同ホテルが展示・所蔵する100点を超える装飾品のチャリティ・オークションを開催。オークションの収益金全額をBIAAGキャンペーンにご寄付くださいました。開催中には、人生の節目に同ホテルを利用された多くのお客さまが来場し、それぞれの思い出で彩られた品物を吟味しながら選び、ご協力くださいました。

リーガロイヤルホテル京都キクの間で実施されたイベント

＊この取り組みは、リーガロイヤルホテル京都に投資をしているフォートレス・インベストメント・グループLLCの運用ファンドのアドバイザーであるフォートレス・インベストメント・グループ・ジャパン合同会社の発案で実施されました。

株式会社リクルートホールディングス

社内映画上映会とアイディアソンの開催を通じて社員の支援を呼びかけ

グループで話し合ったことを発表する参加者

3月30日リクルートホールディングス本社にて、一人ひとりが多様な個性を活かし、より力を発揮することを目指す、リクルートのダイバーシティ推進プロジェクト「Be a DIVER！」の一環として、途上国の女の子たちの現状を描いた映画『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』の上映とアイディアソン＊が開催されました。アイディアソンでは、参加者がグループに分かれ、プラン・スポンサーシップの支援者をより多く獲得するための方法について熱い議論を交わしました。また、会場では交流を求めているチャイルドが紹介され、その場で支援を申し込む参加者もいらっしゃいました。

＊アイディアソンとは、アイディアを出し合うワークショップです

株式会社エクチュア

バレンタイン限定チョコレートによる支援

同社は、大阪、谷町に拠点を置くチョコレート店。「女性がワクワクするバレンタインだからこそ、世界には困難な状況に直面している女の子がいることを知ってほしい」と2016年のバレンタインデーに期間限定商品として豆をテーマにしたチョコレートを制作、販売。売上げの一部からBIAAGキャンペーンを支援くださいました。キャンペーンのテーマカラーであるピンク色を基調としたパッケージのほか、POPやリーフレットを制作し、全国の百貨店でBIAAGキャンペーンの普及に協力してくださいました。

期間限定で販売された「豆」をテーマにしたチョコレート

三井物産株式会社

社員のボランティア活動によるマッチングギフト

“事業活動を通じて各地域での課題解決に取り組むことが、企業が果たすべき社会的責任である”という考えのもと、積極的にCSR活動を展開する三井物産。世界各地で活躍する社員全員が、社会の課題への関心や感度をより高く持って職務を遂行するために、社員のボランティア活動参加をサポートしています。

2009年からは、ボランティア活動に参加した社員の人数に応じて年に1度、会社から寄付を行うMGVP（Mitsui Global Volunteer Program）マッチングギフトを開始し、毎年さまざまな活動を支援してきました。プラン・インターナショナルを通じたガーナにおける看護師寮建設プロジェクトへの支援も、2015年度のマッチングギフト（6,375人分の寄付）により実現しました。

看護師寮の基礎工事に参加する住民ボランティア

有楽製菓株式会社

チョコレートの売上げの一部でガーナの子どもたちを支援

昭和30年の創業以来、ユニークな発想と技術でお客さまに感動を与えるお菓子作りを続けてきた有楽製菓株式会社は、チョコレート生産国の子どもたちを支援するために、2008年より継続的にプランの活動を支援くださっています。2015年は、前年のご支援で建設されたガーナ南部イースタン州の中学校校舎と同じ敷地内に図書館を建設し書籍を提供することで、子どもたちを取り巻く教育環境を充実させる活動を支援くださいました。2年連続で同じコミュニティの教育プロジェクトを支援くださったことで、コミュニティで提供される教育の質が大きく改善し、子どもたちの学習意欲の向上につながりました。

新しく建てられた図書館の前で笑顔の子どもたち

活動国の基本統計一覧 2016

地域	国	活動開始年	チャイルド数	日本のスポンサーを持つチャイルド数	平均余命（歳）	成人の総識字率（%）	小学校に入学した生徒が最終学年に残る率（%）	5歳未満児死亡率（1,000人あたり）	妊産婦死亡率（10万人あたり）	改善された水源を利用する人の比率（%）	出生登録されている5歳未満の子どもの割合（%）	18歳より前に結婚または事実婚状態にあった20〜24歳の女性の割合（%）	1人あたりのGNI（米ドル）	1日1.90米ドル未満で暮らす人の比率（%）
アジア	バングラデシュ	1994	32,181	1,956	72	60	66	38	176	87	37	52	1,080	44
アジア	カンボジア	2002	22,612	1,118	69	74	47	29	161	76	73	19	1,020	6
アジア	中国	1995	29,561	551	76	95	–	11	27	95	–	–	7,400	11
アジア	インド	1979	60,987	1,728	68	69	–	48	174	94	72	47	1,570	21
アジア	インドネシア	1969	41,000	930	69	93	82	27	126	87	69	14	3,630	16
アジア	ラオス	2006	15,000	363	67	73	78	67	197	76	75	35	1,660	30
アジア	ミャンマー	2012	4,611	0	66	93	75	50	178	81	72	–	1,270	–
アジア	ネパール	1978	39,726	1,959	70	60	70	36	258	92	58	37	730	15
アジア	パキスタン	1997	23,118	1,126	66	55	80	81	178	91	34	21	1,400	8
アジア	フィリピン	1961	35,180	1,491	68	95	76	28	114	92	90	15	3,500	13
アジア	スリランカ	1981	20,227	949	75	91	98	10	30	96	97	12	3,460	2
アジア	タイ	1981	12,257	594	75	96	–	12	20	98	99	22	5,780	0
アジア	東ティモール	2001	13,000	66	69	58	81	53	215	72	55	19	2,680	47
アジア	ベトナム	1993（再開）	34,224	2,393	76	94	90	22	54	98	96	11	1,890	3
中南米	ボリビア	1969	42,522	1,062	69	92	97	38	206	90	76	22	2,870	8
中南米	ブラジル	1997	16,580	206	75	90	–	16	44	98	96	36	11,530	5
中南米	コロンビア	1962	23,586	668	74	93	83	16	64	91	97	23	7,970	6
中南米	ドミニカ共和国	1987	23,987	535	74	90	79	31	92	85	88	37	6,040	2
中南米	エクアドル	1962	45,475	1,165	76	92	89	22	64	87	92	22	6,090	4
中南米	エルサルバドル	1976	35,436	912	73	84	84	17	54	94	99	25	3,920	3
中南米	グアテマラ	1978	36,663	864	72	78	72	29	88	93	97	30	3,430	12
中南米	ハイチ	1973	32,173	111	63	49	–	69	359	58	80	18	820	54
中南米	ホンジュラス	1977	34,624	1,029	73	85	75	20	129	91	94	34	2,270	19
中南米	ニカラグア	1994	29,084	621	75	78	–	22	150	87	85	41	1,870	11
中南米	パラグアイ	1994	24,032	451	73	94	84	21	132	98	85	18	4,400	2
中南米	ペルー	1994	25,050	569	75	94	91	17	68	87	97	19	6,360	4
東南アフリカ	エジプト	1981	34,133	1,319	71	72	96	24	33	99	99	17	3,050	–
東南アフリカ	エチオピア	1995	30,396	721	65	39	37	59	353	57	7	41	550	34
東南アフリカ	ケニア	1982	62,952	1,933	62	72	–	49	510	63	67	23	1,290	34
東南アフリカ	マラウィ	1994	23,949	444	64	61	49	64	634	90	6	46	250	71
東南アフリカ	モザンビーク	2007	11,837	80	55	51	31	79	489	51	48	48	600	69
東南アフリカ	ルワンダ	2007	16,417	100	65	66	35	42	290	76	63	8	700	60
東南アフリカ	南スーダン	2006（独立前から該当地域にて）	6,500	29	56	27	–	93	789	59	35	52	970	–
東南アフリカ	スーダン	1977	30,790	430	64	74	80	70	311	–	67	33	1,710	15
東南アフリカ	タンザニア	1991	30,003	761	66	68	67	49	398	56	15	37	920	47
東南アフリカ	ウガンダ	1992	36,883	1,015	59	73	25	55	343	79	30	40	670	33
東南アフリカ	ザンビア	1996	23,324	380	61	61	55	64	224	65	11	31	1,680	64
東南アフリカ	ジンバブエ	1986	40,429	1,228	59	84	–	71	443	77	32	34	840	–
西アフリカ	ベナン	1994	24,394	260	60	29	53	100	405	78	85	32	890	53
西アフリカ	ブルキナファソ	1976	41,334	1,526	59	29	69	89	371	82	77	52	700	55
西アフリカ	カメルーン	1996	25,928	550	56	71	70	88	596	76	66	38	1,350	29
西アフリカ	ガーナ	1992	28,499	624	62	71	84	62	319	89	71	21	1,590	25
西アフリカ	ギニア	1989	31,766	756	59	25	53	94	679	77	58	52	470	35
西アフリカ	ギニアビサウ	1995	19,976	256	55	58	–	93	549	79	24	22	550	67
西アフリカ	リベリア	2006（再開）	12,250	0	61	43	68	70	725	76	25	36	370	69
西アフリカ	マリ	1974	28,045	581	58	31	62	115	587	77	81	55	650	49
西アフリカ	ニジェール	1998	21,620	262	62	15	64	96	553	58	64	76	410	50
西アフリカ	ナイジェリア	2014	0	0	53	51	79	109	814	69	30	43	2,970	54
西アフリカ	セネガル	1982	34,719	1,466	67	52	61	47	315	79	73	32	1,050	38
西アフリカ	シエラレオネ	1976	13,000	147	51	46	48	120	1,360	63	77	39	700	52
西アフリカ	トーゴ	1988	24,482	784	60	60	53	78	368	63	78	22	570	54
	日本	1983	–	–	84	–	100	3	5	100	100	–	42,000	–

※プランに関するデータは 2016 年 6 月 30 日現在のものです。それ以外のデータは、「ユニセフ 世界子供白書 2016」からの出典となります

2016年度 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 決算報告 2015 年 7 月 1 日～ 2016 年 6 月 30 日

この決算報告は、PwC あらた有限責任監査法人（Pricewaterhouse Coopers Aarata）および本財団監事による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等の抜粋です。財務諸表等はウェブサイト https://www.plan-international.jp でご覧いただけます。

貸借対照表

2016年6月30日現在（単位：円）

科目	金額
Ⅰ　資産の部	
1. 流動資産	759,709,690
2. 固定資産	
(1) 基本財産	200,000,000
(2) 特定資産	479,382,122
(3) その他固定資産	326,668,744
固定資産合計	1,006,050,866
資産合計	**1,765,760,556**
Ⅱ　負債の部	
1. 流動負債	87,835,142
2. 固定負債	0
負債合計	87,835,142
Ⅲ　正味財産の部	
1. 指定正味財産	679,382,122
2. 一般正味財産	998,543,292
正味財産合計	1,677,925,414
負債及び正味財産合計	**1,765,760,556**

正味財産増減計算書

2015年7月1日から2016年6月30日まで（単位：円）

科目	金額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	**199,714**
②受取寄付金	**2,770,229,472**
③特定資産運用益	**34,764**
④受取補助金等	**646,852,809**
⑤雑収益	**3,642,799**
経常収益計	**3,420,959,558**
(2) 経常費用	
①事業費	**3,319,342,137**
地域開発・緊急復興支援事業費	2,623,332,109
国際相互理解促進・啓発事業費	219,400,703
支援募集活動費	405,704,770
寄付金取扱事務費	70,904,555
②管理費	**115,337,095**
経常費用計	**3,434,679,232**
投資有価証券評価損益	240,000
当期経常増減額	△ 13,479,674
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 13,479,674
一般正味財産期首残高	1,012,022,966
一般正味財産期末残高	998,543,292
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
①受取寄付金	**406,103,976**
②特定資産運用益	**9,891**
③受取補助金等	**623,488,688**
④一般正味財産への振替	**△ 978,837,334**
当期指定正味財産増減額	**50,765,221**
指定正味財産期首残高	**628,616,901**
指定正味財産期末残高	**679,382,122**
Ⅲ　正味財産期末残高	**1,677,925,414**

※事業費は 2017 年度予算の仕訳に組み替えて表示しています

監査報告書

監 査 報 告 書

独 立 監 査 人 の 監 査 報 告 書

受取寄付金内訳 （この表は監査を受けていません）（単位：千円）

寄付金の種別	経常収益
スポンサーシップ寄付金	1,863,951
マンスリー・サポーター寄付金	469,420
プロジェクト特定寄付金	331,985
プロジェクト無特定寄付金	104,874
合計	2,770,229

受取補助金等内訳 （この表は監査を受けていません） （単位：千円）

補助金等の名称	交付者	経常収益
日本 NGO 連携無償資金協力	駐ハイチ大使館	78,463
	駐ベトナム大使館	56,777
草の根・人間の安全保障無償資金協力	駐ベトナム大使館	11,468
	駐ホンジュラス大使館	12,239
	駐ハイチ大使館	11,636
	駐ジンバブエ大使館	23,740
NGO 事業補助金	外務省国際協力局	575
日本社会開発基金	世界銀行	21,849
食糧安定供給	世界食糧計画	252,939
日本特別基金	米州開発銀行	19,140
緊急復興支援	アジア開発銀行	116,518
「食と健康」国際協力支援プログラム	味の素	2,196
事業投資資金	Plan International, Inc.	38,738
NGO 海外スタディ・プログラム	国際協力 NGO センター	573
合計		**646,853**

経常費用内訳 （この表は監査を受けていません） （単位：千円）

		活動国プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	諸雑費	計
事業費	地域開発・緊急復興支援事業費	2,560,708	36	41,793	8,555	12,015	224	**2,623,332**
	国際相互理解促進・啓発事業費	-	24,800	80,151	64,672	49,056	723	**219,401**
	支援募集活動費	-	217,665	71,350	72,486	43,867	337	**405,705**
	寄付金取扱事務費	-	-	14,387	40,528	15,932	58	**70,905**
管理費		-	-	80,634	11,688	20,843	2,173	**115,337**
合計		**2,560,708**	**242,500**	**288,315**	**197,929**	**141,713**	**3,514**	**3,434,679**

事業一覧 （この表は監査を受けておりません） （単位：千円）

			プラン・スポンサーシップ / プラン特別プロジェクト他	Girl's Project	プラン一般プロジェクト	プラン・マンスリー・サポーター・プロジェクト	緊急・復興支援	合計	
地域開発・緊急復興支援事業費	アジア	バングラデシュ	バングラデシュ地域開発プロジェクト	58,978	-	-	-	-	58,978	
			「災害に強い学校」世界プログラム	-	-	-	20,076	-	20,076	
		カンボジア	カンボジア地域開発プロジェクト	39,591	-	-	-	-	39,591	
			学校給食を通じた子どもの栄養改善	-	-	-	272,083	-	272,083	C,G
			女の子の自立を助ける職業訓練	-	31,575	-	-	-	31,575	
		中国	中国地域開発プロジェクト	34,019	-	-	-	-	34,019	
			「災害に強い学校」世界プログラム	-	-	-	20,076	-	20,076	
		インド	インド地域開発プロジェクト	71,199	-	-	-	-	71,199	
			障がいのある子どもたち（自立支援）	-	-	-	24,246	-	24,246	
			乳幼児の総合的栄養改善	-	-	1,005	-	-	1,005	A
			女の子のための教育推進	-	17,987	-	-	-	17,987	
		インドネシア	インドネシア地域開発プロジェクト	26,930	-	-	-	-	26,930	
			公立職業訓練センターの能力強化を通じた若年女性の就業支援	-	2,059	-	-	-	2,059	A
		ラオス	ラオス地域開発プロジェクト	40,277	-	-	-	-	40,277	
			水の確保と衛生改善	-	-	13,997	-	-	13,997	
		ミャンマー	ミャンマー地域開発プロジェクト	5,301	-	-	-	-	5,301	
			南・東南アジア洪水緊急支援	-	-	-	-	1,649	1,649	
		ネパール	ネパール地域開発プロジェクト	61,981	-	-	-	-	61,981	
			働く子どもたち（児童労働ゼロの地域づくり）	-	-	-	10,089	-	10,089	
			安全な妊娠・出産支援	-	-	11,400	-	-	11,400	
			女の子の早すぎる結婚防止	-	2,471	-	-	-	2,471	
			ネパール大地震緊急支援	-	-	-	-	8,910	8,910	
		パキスタン	パキスタン地域開発プロジェクト	30,744	-	-	-	-	30,744	
			「災害に強い学校」世界プログラム	-	-	-	20,076	-	20,076	
			南・東南アジア洪水緊急支援	-	-	-	-	618	618	
		フィリピン	フィリピン地域開発プロジェクト	42,388	-	-	-	-	42,388	
			災害に強い小学校校舎建設	-	-	15,638	-	-	15,638	
			台風ハイエン被災者復興支援	-	-	-	-	120,842	120,842	D
		スリランカ	スリランカ地域開発プロジェクト	26,041	-	-	-	-	26,041	
			子どもの保護とケアおよび地域社会への復帰支援	-	-	-	34,013	-	34,013	
			診療所母子保健棟修繕	-	-	1,363	-	-	1,363	B
		タイ	タイ地域開発プロジェクト	33,093	-	-	-	-	33,093	
			災害に強い小学校校舎建設	-	-	-	14,898	-	14,898	
		東ティモール	東ティモール地域開発プロジェクト	6,602	-	-	-	-	6,602	
		ベトナム	ベトナム地域開発プロジェクト	87,967	-	-	-	-	87,967	
			水衛生施設整備	11,468	-	-	-	-	11,468	B
			少数民族の栄養改善	-	-	2,204	-	-	2,204	I
			少数民族の初等教育改善事業	-	-	56,777	-	-	56,777	A
	中南米	ボリビア	ボリビア地域開発プロジェクト	31,289	-	-	-	-	31,289	
		ブラジル	ブラジル地域開発プロジェクト	5,937	-	-	-	-	5,937	
		コロンビア	コロンビア地域開発プロジェクト	22,972	-	-	-	-	22,972	
			子育て・家族計画サポート	-	17,206	-	-	-	17,206	
		ドミニカ共和国	ドミニカ共和国地域開発プロジェクト	16,032	-	-	-	-	16,032	
		エクアドル	エクアドル地域開発プロジェクト	37,421	-	-	-	-	37,421	
			エクアドル大地震緊急支援	-	-	-	-	8,875	8,875	
		エルサルバドル	エルサルバドル地域開発プロジェクト	25,381	-	-	-	-	25,381	
		グアテマラ	グアテマラ地域開発プロジェクト	26,184	-	-	-	-	26,184	
			少数民族の栄養改善事業	19,140	-	-	-	-	19,140	E
		ハイチ	ハイチ地域開発プロジェクト	4,904	-	-	-	-	4,904	
			水衛生環境改善	78,463	-	-	-	-	78,463	A
			小学校建設	11,636	-	-	-	-	11,636	B
		ホンジュラス	ホンジュラス地域開発プロジェクト	29,654	-	-	-	-	29,654	
			小学校建設	12,239	-	-	-	-	12,239	B
		ニカラグア	ニカラグア地域開発プロジェクト	19,531	-	-	-	-	19,531	
		パラグアイ	パラグアイ地域開発プロジェクト	18,011	-	-	-	-	18,011	
		ペルー	ペルー地域開発プロジェクト	19,588	-	-	-	-	19,588	
	東南アフリカ	エジプト	エジプト地域開発プロジェクト	39,118	-	-	-	-	39,118	
			ストリート・チルドレン（子どもの保護と教育）	-	-	-	26,251	-	26,251	
		エチオピア	エチオピア地域開発プロジェクト	20,563	-	-	-	-	20,563	
			小学校建設	-	-	2,316	-	-	2,316	B
			エチオピア食糧緊急支援	-	-	-	-	1,308	1,308	
		ケニア	ケニア地域開発プロジェクト	80,664	-	-	-	-	80,664	
		マラウィ	マラウィ地域開発プロジェクト	20,522	-	-	-	-	20,522	
			子どもの栄養改善と食糧確保	-	-	9,522	-	-	9,522	
		モザンビーク	モザンビーク地域開発プロジェクト	1,950	-	-	-	-	1,950	
		ルワンダ	ルワンダ地域開発プロジェクト	2,524	-	-	-	-	2,524	
		南スーダン	南スーダン地域開発プロジェクト	860	-	-	-	-	860	
			若者への就職・起業支援	-	-	-	10,081	-	10,081	
		スーダン	スーダン地域開発プロジェクト	12,504	-	-	-	-	12,504	
			国内避難民キャンプ水衛生環境	-	-	-	2,280	-	2,280	H
		タンザニア	タンザニア地域開発プロジェクト	41,254	-	-	-	-	41,254	
		ウガンダ	ウガンダ地域開発プロジェクト	28,995	-	-	-	-	28,995	
			女性のための生計向上	-	18,748	-	-	-	18,748	
		ザンビア	ザンビア地域開発プロジェクト	11,070	-	-	-	-	11,070	
		ジンバブエ	ジンバブエ地域開発プロジェクト	42,930	-	-	-	-	42,930	
			中等学校建設	23,740	-	-	-	-	23,740	B
			女の子が安心して学ぶ寄宿舎建設	-	17,985	-	-	-	17,985	
	西アフリカ	ベナン	ベナン地域開発プロジェクト	8,544	-	-	-	-	8,544	
			コミュニティ主導栄養改善	21,849	-	-	-	-	21,849	F
		ブルキナファソ	ブルキナファソ地域開発プロジェクト	43,277	-	-	-	-	43,277	
		カメルーン	カメルーン地域開発プロジェクト	15,257	-	-	-	-	15,257	
			子どもと女性を中心とした HIV 予防とケア	-	-	-	10,528	-	10,528	
		ガーナ	ガーナ地域開発プロジェクト	52,136	-	-	-	-	52,136	
		ギニア	ギニア地域開発プロジェクト	21,742	-	-	-	-	21,742	
		ギニアビサウ	ギニアビサウ地域開発プロジェクト	7,055	-	-	-	-	7,055	
		リベリア	女の子の教育への理解促進	-	9,883	-	-	-	9,883	
		マリ	マリ地域開発プロジェクト	20,821	-	-	-	-	20,821	
		ニジェール	ニジェール地域開発プロジェクト	7,887	-	-	-	-	7,887	
		セネガル	セネガル地域開発プロジェクト	49,259	-	-	-	-	49,259	
		シエラレオネ	シエラレオネ地域開発プロジェクト	4,675	-	-	-	-	4,675	
		トーゴ	トーゴ地域開発プロジェクト	22,915	-	-	-	-	22,915	
			障がいのある子どもたちの支援体制づくり	-	-	-	14,499	-	14,499	
	PII 国際本部			206,954	-	-	-	-	206,954	
	日本		熊本地震緊急支援	1	-	-	-	5,769	5,770	
	小計			**1,764,025**	**117,916**	**114,223**	**479,196**	**147,972**	**2,623,332**	
国際相互理解促進・啓発事業費				195,946	6,429	3,191	12,369	1,465	219,401	J
支援募集活動費				318,505	24,454	13,879	43,929	4,937	405,705	K
寄付金取扱事務費				56,189	4,034	2,002	7,761	919	70,905	
事業費計				**2,334,665**	**152,833**	**133,296**	**543,256**	**155,294**	**3,319,342**	
管理費				87,978	7,008	4,251	14,454	1,646	115,337	
経常費用計				**2,422,643**	**159,840**	**137,547**	**557,710**	**156,940**	**3,434,679**	

注記：合計欄の横に、アルファベットが振られている事業は、以下の団体による助成により実施した費用を一部含みます。
A 外務省 日本 NGO 連携無償資金協力、B 外務省 草の根・人間の安全保障無償資金協力、C 外務省 NGO 事業補助金、D アジア開発銀行、E 米州開発銀行、F 世界銀行、G 国連世界食糧計画、
H 国際移住機関、I　味の素「食と健康」国際協力支援プログラム、J 国際協力 NGO センター NGO 海外スタディプログラム　K Plan International,inc 事業投資金

2016年度 プラン・インターナショナル 国際連結決算報告

2015 年 7 月 1 日～ 2016 年 6 月 30 日

これらは、プラン・インターナショナル支援国、活動国、国際本部の連結した財務状況を表示しています。世界の皆さまからのご支援により、収入は 8 億 1,004 万ユーロとなり、途上国の地域開発・緊急復興支援プロジェクトおよび政策提言、啓発等の事業に 6 億 1,593 万ユーロを支出することができました。詳しくは、プラン・インターナショナルのウェブサイト http://plan-international.org/ (英文) でご覧いただけます。※ 1 ユーロは約 114 円です（2016 年 6 月 30 日現在）

連結損益計算書および連結包括損益計算書

2015 年 7 月 1 日～ 2016 年 6 月 30 日
（単位：1,000 €）

科目	当年度	前年度
I　収益		
スポンサーシップ寄付金	362,927	365,812
受取助成金	273,965	289,666
現物助成金	62,088	43,810
その他寄付金	105,399	116,086
受取利息	2,362	2,206
事業収益	3,308	4,149
収益合計	**810,049**	**821,729**
II　費用		
プログラム費	615,934	634,008
広報費	111,063	123,845
管理費	67,221	63,980
収益事業費	2,954	3,355
為替損益計算前支出合計	**797,172**	**825,188**
為替差損(益)	9,063	△15,559
費用合計	**806,235**	**809,629**
III　包括損益		
当期損益差額	**3,814**	**12,100**
退職給付引当金見積変更	△ 298	24
有価証券評価損益	△ 583	△ 248
外貨換算調整	△ 7,386	14,126
当期包括損益差額	**△ 4,453**	**26,002**

連結貸借対照表

2016 年 6 月 30 日現在（単位：1,000 €）

科目	2016/6/30	2015/6/30
I　資産の部		
流動資産		
現金および現金同等物	275,585	293,492
売却可能有価証券	25,641	21,870
満期保有目的有価証券	3,123	4,179
未収金	33,712	39,721
前払費用	10,627	11,404
棚卸資産	1,368	1,577
流動資産合計	350,056	372,243
固定資産		
売却可能有価証券	6,231	6,592
満期保有目的有価証券	2,347	1,484
金銭信託等その他金融資産	1,035	1,077
有形固定資産	21,901	28,937
無形固定資産	13,338	15,974
未収金	2,538	1,826
固定資産合計	47,390	55,890
資産合計	397,446	428,133
II 負債の部		
流動負債		
当座借越	4,820	6,050
未払金	20,890	24,850
未払費用	25,765	37,854
繰延収益	2,300	7,552
退職給付引当金等	25,489	28,182
流動負債合計	79,264	104,488
固定負債		
借入金	1,779	1,937
繰延収益	-	1,250
退職給付引当金等	1,290	1,358
その他固定負債	4,009	3,543
固定負債合計	7,078	8,088
負債合計	86,342	112,576
III 正味財産の部		
一般正味財産	94,230	82,843
一時的指定正味財産	201,431	216,741
永久的指定正味財産	15,443	15,973
正味財産合計	311,104	315,557
負債及び正味財産合計	397,446	428,133

プログラム費国別内訳（この表は監査を受けておりません）

（単位：1.000 €）

		保健	性と生殖に関する健康と権利	教育	水と衛生	家計の安定	子どもの保護	子どもの参加	緊急支援	プログラム共通費	スポンサーシップコミュニケーション／開発教育	合計
アジア	バングラデシュ	2,334	1,578	819	6,280	83	2,062	1,427	1,540	3,118	334	19,574
	カンボジア	5,759	120	2,321	1,677	700	674	691	247	1,649	258	14,095
	中国	437	-	324	35	44	318	315	210	1,395	255	3,333
	インド	2,546	2,453	3,116	1,973	2,915	2,289	834	611	-	739	17,476
	インドネシア	1,478	-	36	503	1,173	433	143	1,120	3,618	167	8,671
	ラオス	345	-	1,340	440	5	116	173	-	1,601	228	4,248
	ミャンマー	871	0	1,264	541	728	370	843	15,154	1,942	351	22,064
	ネパール	214	137	2,011	5,204	2,243	189	658	449	1,176	481	12,763
	パキスタン	1,208	-	3,820	981	2,886	922	839	5,664	△1,106	384	15,598
	フィリピン	361	-	683	540	143	321	287	35	1,669	118	4,157
	スリランカ	197	222	205	10	200	411	95	207	1,190	244	2,983
	タイ	136	28	306	770	154	149	101	110	949	452	3,156
	東ティモール	1,044	-	2,649	1,233	733	425	958	450	1,160	673	9,325
	ベトナム	74	-	386	280	148	1	1	11,322	△394	260	12,078
	地域統括事務所（タイ）	85	△0	126	16	137	645	328	1,139	2,530	157	5,162
	アジア小計	**17,090**	**4,538**	**19,408**	**20,484**	**12,294**	**9,325**	**7,690**	**38,259**	**20,495**	**5,102**	**154,685**
中南米	ボリビア	2,056	920	914	486	904	371	586	113	2,949	751	10,048
	ブラジル	214	176	328	12	835	307	490	0	2,084	245	4,691
	コロンビア	1,546	121	1,593	156	1,072	2,054	4,233	1,710	21	613	13,120
	ドミニカ共和国	277	25	458	0	317	594	460	310	1,825	179	4,446
	エクアドル	149	359	1,227	7	248	302	722	1,102	3,515	663	8,294
	エルサルバドル	836	4,317	465	150	467	186	461	348	2,771	381	10,382
	グアテマラ	720	229	1,882	179	569	519	869	196	2,595	358	8,114
	ハイチ	252	9	336	489	68	72	211	376	3,572	531	5,916
	ホンジュラス	234	54	1,125	890	60	597	642	174	1,935	175	5,885
	ニカラグア	2,610	348	409	2	265	723	521	164	1,197	289	6,528
	パラグアイ	88	3	45	1	309	264	168	681	1,632	199	3,388
	ペルー	261	25	235	15	182	31	155	7	2,133	409	3,452
	地域統括事務所（パナマ）	10	167	198	-	47	215	318	320	2,038	77	3,390
	中南米小計	**9,251**	**6,750**	**9,215**	**2,387**	**5,343**	**6,235**	**9,836**	**5,502**	**28,267**	**4,870**	**87,655**
東南アフリカ	エジプト	439	1,117	425	0	628	750	1,158	1,818	2,470	506	9,312
	エチオピア	513	2	719	1,274	422	545	715	5,233	2,791	607	12,821
	ケニア	1,814	669	2,371	470	914	2,469	1,400	428	2,043	1,428	14,007
	マラウィ	847	367	561	2,409	699	704	703	5,514	3,358	251	15,414
	モザンビーク	68	1	400	0	444	53	158	92	1,821	34	3,071
	ルワンダ	358	-	1,703	27	407	275	700	1,924	1,308	190	6,891
	南スーダン	20	-	725	640	943	31	73	12,694	795	119	16,040
	スーダン	741	0	836	774	361	165	24	1,248	1,157	443	5,749
	タンザニア	280	44	120	1,996	1,451	654	632	1,686	1,546	435	8,843
	ウガンダ	1,164	829	1,577	702	1,212	1,077	1,123	384	1,707	452	10,227
	ザンビア	244	209	398	57	628	404	886	65	2,197	278	5,365
	ジンバブエ	1,272	311	1,620	1,332	3,158	1,105	385	4,976	2,878	463	17,499
	地域統括事務所（ケニア）	172	-	-	-	95	13	1,385	51	4,070	18	5,804
	東南アフリカ小計	**7,932**	**3,550**	**11,456**	**9,679**	**11,362**	**8,246**	**9,340**	**36,114**	**28,141**	**5,225**	**131,043**
西アフリカ	ベナン	1,156	2,422	406	93	528	277	390	40	1,513	388	7,213
	ブルキナファソ	57	26	1,576	921	542	259	86	148	3,410	1,116	8,141
	カメルーン	1,779	218	1,234	85	103	117	197	4,079	1,950	549	10,310
	ガーナ	742	6	1,550	462	706	230	360	25	1,959	278	6,318
	ギニア	10,495	-	5,555	1,528	348	279	423	1,877	3,747	957	25,209
	中央アフリカ	-	-	-	-	-	259	-	5,825	2	-	6,087
	ギニアビサウ	239	-	395	113	78	209	65	88	1,391	183	2,760
	リベリア	2,354	-	1,788	951	529	159	119	377	2,400	173	8,849
	マリ	1,679	1,716	2,050	471	328	94	80	2,173	2,562	791	11,943
	ニジェール	1,129	2	1,158	59	103	364	297	2,088	1,893	235	7,328
	ナイジェリア	312	-	107	112	-	-	52	-	△1,052	10	△459
	セネガル	3,734	-	319	230	174	208	257	14	2,384	739	8,060
	シエラレオネ	1,231	-	4,089	687	452	769	504	4,605	766	300	13,404
	トーゴ	2,583	557	1,540	524	335	658	613	322	2,450	482	10,064
	地域統括事務所（セネガル）	109	-	153	-	69	33	419	453	2,842	255	4,332
	西アフリカ小計	**27,599**	**4,947**	**21,919**	**6,234**	**4,292**	**3,915**	**3,861**	**22,115**	**28,216**	**6,457**	**129,555**
調整項目		18,210	5,332	22,140	12,295	11,415	10,264	13,738	17,063	△105,118	9,977	15,315
活動国合計		**80,081**	**25,117**	**84,138**	**51,079**	**44,706**	**37,985**	**44,466**	**119,052**	-	**31,630**	**518,254**
支援国		9,593	5,844	10,361	4,715	6,602	8,595	19,077	10,881	-	5,400	81,068
国際本部		1,780	588	2,004	1,242	956	867	3,006	4,175	-	1,994	16,612
合計		**91,454**	**31,549**	**96,503**	**57,036**	**52,264**	**47,447**	**66,549**	**134,108**	-	**39,024**	**615,934**

2016年度
プラン・インターナショナル
年次報告書

ANNUAL REPORT 2016
2015/7～2016/6

プラン・インターナショナルの目標

私たちは、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現する

私たちは世界中の人々とともに、以下の活動を行う

1. 子どもや若者・地域社会が、女の子や、疎外され弱い立場にある人々への差別の根本原因を断ち切り、変革できるよう力づける
2. 子どもたちが直面している課題に対し、私たちの知識や経験を生かして、地域や国・国際社会が政策や意識・行動を変えていけるよう促す
3. 子どもたちや地域社会が、自然災害や紛争などの危機的状況に備え、対応し、困難を乗り越えられるようともに働く
4. 子どもたちが、誕生から大人になるまで、安全な環境のもと、健やかに成長できるよう支える

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200
（業務時間 / 土・日・祝日を除く 9:00～17:30）
service@plan-international.jp
www.plan-international.jp

Accountability
Self-Check 2012

これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

PLAN INTERNATIONAL

●表紙撮影地 / エチオピア　●この冊子は、1冊あたり約45円で製作されています